CZ-366-H48
1200600133254
3330
121
禁電

和十五年二月

稅制改正ニ關スル法律案新舊對照（其ノ一）

大藏省主稅局

CZ-366-H48

改廢ノ箇所ハ傍線ヲ施シテ之ヲ示ス

I種
W
1200600133254

目次

一 所得税法……一頁
二 法人税法……三九
三 配當利子特別税法……五七
四 外貨債特別税法……六一
五 相續税法……六三
六 建築税法……七一
七 鑛區税法……七五
八 臨時利得税法……八一
九 營業税法……九五
一〇 地租法……一〇七
一一 酒税法……一一一
一二 清涼飲料税法……一七三
一三 砂糖消費税法……一七五
一四 織物消費税法……一八七
一五 揮發油税法……一九一
一六 物品税法……一九三
一七 遊興飲食税法……二〇七

一八　取引所税法……二一一
一九　通行税法……二一五
二〇　入場税法……二二一
二一　印紙税法……二二七
二二　骨牌税法……二三一
二三　狩猟法……二三三
二四　明治四十四年法律第四十五號（砂糖消費税織物消費税等ノ徴收ニ關スル件）……二三五
二五　大正九年法律第五十一號（内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國税免除ニ關スル件）……二三七
二六　臨時租税措置法……二三九

所得税法

改正法

第一章　總則

第一條　本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ハ本法ニ依リ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セザル個人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

一　本法施行地ニ資産又ハ事業ヲ有スルトキ

二　本法施行地ニ於テ公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

三　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ受クルトキ

四　本法施行地ニ於テ俸給、給料、歳費、費用辨償（月額又ハ年額ヲ以テ支給スルモノニ限ル以下同ジ）、年金（郵便年金ヲ除ク以下同ジ）、恩給、賞與若ハ退職給與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ受クルトキ

第三條　法人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

一　本法施行地ニ於テ公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

現行法

第一條　本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

一　本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二　本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

三　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

四　本法施行地ニ於テ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ノ支拂ヲ受クルトキ

二　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ剰餘金ノ分配ヲ受クルトキ

第四條　北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セズ

第五條　命令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造、採掘又ハ採取ヲ業トスル個人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第六條　信託財產ニ付生ズル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スベキ受益者ガ信託財產ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス合同運用信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未ダ存在セザルトキハ委託者又ハ其ノ相續人ヲ以テ受益者ト看做ス

公益信託ノ信託財產ニ付生ズル所得ニハ所得稅ヲ課セズ

第七條　本法ニ於テ合同運用信託トハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ共同セザル多數ノ委託者ノ信託財產ヲ合同シテ運用スルモノヲ謂フ

第八條　左ノ金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做シ本法ヲ適用ス

第十七條　北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第十九條　勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第三條ノ二　信託財產ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財產ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス

第三條ノ三　本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財產ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ

第十四條第二項　株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

一　株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

二　法人解散シタル場合ニ於テ殘餘財產ノ分配トシテ株主又ハ社員ノ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

三　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ其ノ株主又ハ社員ノ有シタル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

第九條　所得稅ハ之ヲ分類所得稅及綜合所得稅ノ二種トス

第二章　分類所得稅

第十條　分類所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一　不動產所得

不動產、不動產上ノ權利又ハ船舶ノ貸付（永小作權又ハ地上權ノ設定其ノ他他人ヲシテ不動產、不動產上ノ權利又ハ船舶ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ニ因ル所得但シ甲種ノ事業所得ニ屬スルモノヲ除ク

第二　配當利子所得

甲種　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ預金（法人ニ對ス

第三條　所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲　法人ノ普通所得

乙　法人ノ超過所得

丙　法人ノ清算所得

第二種

甲　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

ル預金ニ限ル）ノ利子及合同運用信託ノ利益竝ニ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剰餘金ノ分配

乙種　營業ニ非ザル貸金ノ利子竝ニ甲種ニ屬セザル公債、社債又ハ預金ノ利子、合同運用信託ノ利益及法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剰餘金ノ分配

第三　事業所得

甲種　左ニ掲グル營業ノ所得

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム）

二　金錢貸付業

三　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ貸付ヲ含ム）

四　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）

五　運送業（運送取扱ヲ含ム）

六　倉庫業

七　請負業

八　印刷業

九　出版業

十　寫眞業

十一　席貸業

十二　旅人宿業

十三　料理店業

十四　周旋業

十五　代理業

十六　仲立業

十七　問屋業

十八　鑛業

十九　砂鑛業

二十　湯屋業

二十一　理髮美容業

二十二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル營業

乙種　農業、畜產業、水產業等ノ所得、醫師、辯護士等ノ所得其ノ他他ノ種目ニ屬セザル總テノ所得

第四　勤勞所得

甲種　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル俸給、給料、歲費、費用辨償、年金、恩給（一時金タル恩給ヲ除ク）及賞與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

但シ命令ヲ以テ定ムル個人ヨリ支拂ヲ受クルモノヲ除ク

乙種　甲種ニ屬セザル俸給、給料、歲費、費用辨償、年金、恩給（一時金タル恩給ヲ除ク）及賞與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第五　山林ノ所得

第六　退職所得

乙　第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剰餘金ノ分配又ハ利益若ハ剰餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

丙　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

甲種　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル一時恩給及退職給與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

乙種　甲種ニ屬セザル一時恩給及退職給與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第十一條　左ノ各號ニ該當スル所得ニハ分類所得稅ヲ課セズ

一　軍人及軍屬ノ從軍中ノ俸給、手當及賞與

二　傷痍疾病者ノ恩給竝ニ遺族ノ恩給及年金

三　旅費、學資金及法定扶養料

四　郵便貯金ノ利子及命令ヲ以テ定ムル當座預金ノ利子

五　元本三千圓ヲ超エザル銀行貯蓄預金、產業組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子

六　乙種ノ事業所得中營利ヲ目的トスル繼續的行爲ヨリ生ジタルニ非ザル一時ノ所得

七　日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ本法施行地外ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得

前項第五號ノ元本ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條　分類所得稅ヲ課スベキ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　不動產所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

二　甲種ノ配當利子所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額

三　乙種ノ配當利子所得中法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ、其ノ他ハ前年中ノ收入金額（無記名株式ノ配當竝ニ無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）

四　事業所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

五　甲種ノ勤勞所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額

六　乙種ノ勤勞所得ハ前年中ノ收入金額

七　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

八　甲種ノ退職所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル每ニ五千圓ヲ控除シタル金額

九　乙種ノ退職所得ハ前年中ノ收入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル每ニ五千圓ヲ控除シタル金額

所得稅及臨時利得稅ハ前項第一號、第四號及第七號ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

營業利得ニ對スル臨時利得稅額ハ當該臨時利得稅ヲ課セラルベキ年分ノ甲種ノ事業所得金額ヨリ之ヲ控除ス

所得稅ヲ課スベキ甲種ノ事業所得ト其ノ他ノ甲種ノ事業所得トヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

不動產所得、配當利子所得及山林ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ事業所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ事業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十三條　公債又ハ社債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ乙種ノ配當利子所得ノ計算上元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看

第十八條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料

三　旅費、學資金及法定扶養料

四　郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五　第十四條第一項第六號ノ所得中營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十三條　第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル但シ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十四條　第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　營業ニ非サル貸金ノ利子竝第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

一ノ二　第二種ノ所得ニ屬セサル一時恩給及之ニ類スル退職給與ハ前年中ノ收入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル每ニ五千圓ヲ控除シタル金額

二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五　俸給、給料、歲費、年金（郵便年金ヲ除ク）、恩給（一時恩給ヲ除ク）及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

（第二項省略）

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

第十四條　不動產所得ハ百圓ニ滿タザルトキハ分類所得稅ヲ課セズ

戶主及其ノ同居家族ノ不動產所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ不動產所得ニ付亦同ジ

第十五條　乙種ノ配當利子所得ハ百圓ニ滿タザルトキハ分類所得稅ヲ課セズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十六條　甲種ノ勤勞所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ年六百圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額ヲ其ノ給與ヨリ控除ス

同一ノ支拂者ヨリ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ト其ノ他ノ給與トヲ併セ受クル者ニ在リテハ前項ノ控除ハ先ヅ賞與及賞與ノ性質ヲ有スル給與以外ノ給與ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ及ブ

二以上ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ヲ受クル者ニ付テハ前二項ノ規定ニ依ル控除ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十七條　事業所得及乙種ノ勤勞所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ金額ヲ控除ス

一　事業所得ニ付テハ四百圓

二　乙種ノ勤勞所得ニ付テハ六百圓

事業所得ト乙種ノ勤勞所得トヲ有スル者ノ事業所得ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ但シ乙種ノ勤勞所得ガ六百圓ニ滿タザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ四百圓ト乙種ノ勤勞所得ノ三分ノ二ニ相當スル金額トノ差額ヲ事業所得ヨリ控除ス

第十八條　前年中ニ甲種ノ勤勞所得ニ付第十六條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケタル者ノ事業所得又ハ乙種ノ勤勞所得ニ付テハ前條ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ但シ前年中ニ甲種ノ勤勞所得ニ付第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ガ六百圓ニ滿タザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ金額ヲ控除ス

一　事業所得ニ付テハ四百圓ト第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ノ三分ノ二ニ相當スル金額トノ差額

二　乙種ノ勤勞所得ニ付テハ六百圓ト第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シ

支那事變特別稅法

第六條　所得稅法第二十條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千圓以上ナルトキハ所得稅ヲ課ス

前項ノ所得ハ所得稅法第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戶主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額ニ依ル

前條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

所得稅法

第二十條　第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

タル金額トノ差額

三　前二號ノ所得ヲ併セ有スルトキハ其ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル金額

第十九條　同居ノ戸主及其ノ家族中二人以上ノ者ガ事業所得ヲ有スル場合ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ其ノ事業所得ヨリ控除スベキ金額ハ總額ニ於テ四百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ事業所得ニ付亦同ジ

前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第二十條　山林ノ所得ニ付テハ其ノ所得ヨリ四百圓ヲ控除ス

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　分類所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一　不動產所得　百分ノ十

第二　配當利子所得

甲種

一　國債ノ利子　百分ノ四

二　國債以外ノ公債ノ利子　百分ノ九

三　其ノ他　百分ノ十

乙種　百分ノ十

第三　事業所得

甲種　百分ノ八・五

乙種　百分ノ七・五

第四　勤勞所得　百分ノ六

第五　山林ノ所得

所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

千六百圓以下ノ金額　百分ノ五

千・六百圓ヲ超ユル金額　百分ノ七・五

第六　退職所得

所得金額ヲ支拂者ノ異ナル每ニ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

二萬圓以下ノ金額　百分ノ六

二萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十二

十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十五

五十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ四十

銀行貯蓄預金、產業組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及產業組合、工業組合、商業組合等命令ヲ以テ定ムル法人ヨリ受クル剩餘金ノ分配ニ付テハ前項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ十ハ之ヲ百分ノ五トス

第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓以下ナルトキハ第一項中甲種及乙種ノ事業所得ニ付規定スル稅率百分ノ八・五及百分ノ七・五ハ各之ヲ百分ノ六トス

戸主及其ノ同居家族ノ事業所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ事業所得ニ付亦同ジ

第二十二條　第一條ノ規定ニ該當セザル個人又ハ本法施行地ニ本店若ハ主タ

支那事變特別稅法

第四條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅法第二十二條第一項及臨時租稅增徵法第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ　百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ　百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ　百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ　百分ノ九・五

其ノ他　百分ノ八

乙

臨時租稅增徵法　百分ノ十二・五

第五條　所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅法第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子　百分ノ二

國債以外ノ公債ノ利子　百分ノ六

其ノ他　百分ノ七・五

乙

所得稅法　百分ノ十

第二十二條　第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

公債ノ利子　百分ノ四

其ノ他　百分ノ五

乙　百分ノ七・五

丙

所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

二萬圓以下ノ金額　百分ノ五

二萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ十

十萬圓ヲ超ユル金額　百分ノ二十

ル事務所ヲ有セザル法人ノ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　國債ノ利子　百分ノ九

二　國債以外ノ公債ノ利子　百分ノ十四

三　前條第二項ニ規定スル預金ノ利子及剩餘金ノ分配　百分ノ十

四　其ノ他　百分ノ十五

第一條ノ規定ニ該當セザル個人ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益又ハ剩餘金ノ處分タル賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第二十三條　信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該合同運用信託ノ利益ニ對スル分類所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ甲種ノ配當利子所得ノ計算上當該合同運用信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第二十四條　甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付年百五十圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額ノ百分ノ八ニ相當スル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

同一ノ支拂者ヨリ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ト其ノ他ノ給與トヲ併

第二十二條第二項　信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第十六條　前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

セ受クル者ニ在リテハ前項ノ控除ハ先ヅ賞與及賞與ノ性質ヲ有スル給與以外ノ給與ニ對スル分類所得稅ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ對スル分類所得稅ニ及ブ

二以上ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ヲ受クル者ニ付テハ前二項ノ規定ニ依ル控除ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第一項ノ扶養家族ガ前年中ニ甲種ノ勤勞所得ヲ有シ又ハ其ノ年分ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得若ハ山林ノ所得ヲ有スル場合ニ於テ第十六條第一項、第十七條、第十八條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ此等ノ所得ヨリ控除スル金額ガ總額ニ於テ百五十圓ヲ超ユルトキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第一項ノ扶養家族ニ付第二十五條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ストキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

甲種ノ勤勞所得ヲ有スル者綜合所得稅ノ賦課ヲ受クル者ナルトキハ賦課ヲ受クル年ノ七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ニ受クル給與ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第二十五條　不動產所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得又ハ山林ノ所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付百五十圓ノ百分ノ八ニ相當スル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

前條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ扶養家族ニ付前條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ストキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ノ所得ニ付前三項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ第十四條第一項第一號ノ二及第二號ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ順次同項第二號及第一號ノ二ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癈疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

戸主及其ノ同居家族ノ分類所得税ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付第一項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ分類所得税ニ付亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納税義務者ノ一人又ハ數人ノ分類所得税額ヨリ之ヲ控除ス

第一項ノ所得ヲ有スル者綜合所得税ノ賦課ヲ受クル者ナルトキハ同項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第二十六條　本法ニ於テ扶養家族トハ當該所得ヲ有スル者ノ同居ノ妻竝ニ同居ノ戸主及家族中年齢十八歳未滿若ハ六十歳以上又ハ不具癈疾ノ者ヲ謂フ

前項ニ規定スル不具癈疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　第二十四條及第二十五條ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依ル納税義務者ニハ之ヲ適用セズ

第三章　綜合所得税

第二十八條　綜合所得税ハ個人ノ總所得ニ付之ヲ賦課ス但シ第一條ノ規定ニ該當セザル個人ニ在リテハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ事業ヨリ生ズル所得ニ付テノミ綜合所得税ヲ賦課ス

（第十六條）

第十六條第一項但書　但シ第二條ノ規定ニ依ル納税義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　所得税ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲　法人ノ普通所得

乙　法人ノ超過所得

丙　法人ノ清算所得

第二種

甲　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙　第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

丙　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第十八條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得税ヲ課セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料

三　旅費、學資金及法定扶養料

四　郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五　第十四條第一項第六號ノ所得中營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十四條　第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　營業ニ非サル貸金ノ利子竝第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

一ノ二　第二種ノ所得ニ屬セサル一時恩給及之ニ類スル退職給與ハ前年中ノ收入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ五千圓ヲ控除シタル金額

二　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

第二十九條　左ノ各號ニ該當スル所得ニ付テハ綜合所得税ヲ課セズ

一　第十一條第一項第一號乃至第五號及第七號ノ所得

二　第三十條第一項第八號ノ所得中營利ヲ目的トスル繼續的行爲ヨリ生ジタルニ非ザル一時ノ所得

三　一時恩給及退職給與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第三十條　個人ノ總所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一　不動産、不動産上ノ權利又ハ船舶ノ貸付ニ因ル所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

二　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子竝ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ハ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

三　前號以外ノ公債、社債及預金ノ利子竝ニ合同運用信託ノ利益ハ前年中

ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）

四　營業ニ非ザル貸金ノ利子ハ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額

五　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額

六　山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

七　俸給、給料、歲費、費用辨償、年金、恩給及賞與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額

八　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

所得稅及臨時利得稅ハ前項第一號、第六號及第八號ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

營業利得ニ對スル臨時利得稅額ハ當該臨時利得稅ヲ課セラルベキ年分ノ總所得金額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條第四項ノ規定ハ前項ノ臨時利得稅額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一項第一號乃至第六號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第八號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ事業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十三條ノ規定ハ個人ノ總所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

四　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五　俸給、給料、歲費、年金（郵便年金ヲ除ク）、恩給（一時恩給ヲ除ク）及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六　前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資產、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

（第二項省略）

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資產又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

臨時租稅增徵法

第七條　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ所得稅法第十四條第一項第四號ノ規定ニ拘ラズ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタル金額ニ依リ第三種ノ所得ヲ算出ス

第三十一條　前條ノ規定ニ依リ算出シタル總所得金額一萬圓以下ナルトキハ其ノ所得中同條第一項第七號ノ所得ニ付其ノ十分ノ一ヲ控除ス

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同ジ

第三十二條　總所得金額五千圓以下ナルトキハ綜合所得稅ヲ課セズ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲五千圓以下ト爲リタルトキ亦同ジ

第八條ニ規定スル利益ノ配當、山林ノ所得及其ノ他ノ所得ハ各之ヲ區分シ其ノ各所得ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　綜合所得稅ハ總所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ第八條ニ規定スル利益ノ配當及山林ノ所得ハ各他ノ所得ト之ヲ區分シ第八條ニ規定スル利益ノ配當ニ付テハ其ノ所得金額ニ對シ本項ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トシ山林ノ所得ニ付テハ其ノ所得ヲ五分シタル金額中千圓ヲ超エ五千圓以下ノ金額ニ對シテ

第十五條　前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得（前條第一項第三號及第五號ノ所得）ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一　所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二

二　所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三　所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十條　第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

支那事變特別稅法

第五條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額ノ百分ノ二十二・五ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

前項ノ規定ニ依ル增徵稅額ハ第三種所得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅法第十四條第一項第一號ノ二ノ所得ニ對スルモノヲ除クノ外同法第二十三條第一項ノ規定ニ拘ラズ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ同法第十四條第一項第二號ノ所得ハ其ノ他ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス

千二百圓以下ノ金額	百分ノ一
千二百圓ヲ超ユル金額	百分ノ二・五
千百五圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五・五
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ七
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ九
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十六
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十二
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十八
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十一
十五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十四
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十七
三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十三
七十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十六
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十

第二十三條　第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ第十四條第一項第一號ノ二及第二號ノ所得ハ其ノ他ノ所得ト之ヲ區分シ同項第一號ノ二ノ所得ニ付テハ支拂者ヲ異ニスル金額毎ニ前條第一項丙ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トシ第十四條第一項第二號ノ所得ニ付テハ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ本項ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス

千二百圓以下ノ金額	百分ノ〇・八
千二百圓ヲ超ユル金額	百分ノ二
千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ三
二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ六・五
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九・五
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ一
八千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
一萬二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十五
八萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十
十二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十五
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十
三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十五
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十
八十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十五

前項ノ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ總所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ總所得金額ニ按分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ總所得金額ニ付亦同ジ

第四章　申告、申請、調査及決定

第三十四條　不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得若ハ乙種ノ退職所得ニ付分類所得稅ヲ納ムル義務アル者又ハ個人ノ總所得ニ付綜合所得稅ヲ納ムル義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額其ノ他必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十五條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スベシ

第三十五條　甲種ノ勤勞所得ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十六條ノ規定ニ依ル控除ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十四條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ政府ニ提出スベシ

第三十六條　不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ノ金額竝ニ個人ノ總所得ノ金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後前項ノ所得ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第一項ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ納稅義務者所得金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

納稅義務者第一項ノ規定ニ依ル所得ノ決定前ニ納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

前四項ノ規定ハ第二十五條ノ規定ニ依ル控除ニ因リ徵收稅額ナシト認ムル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十六條　第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七
二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十三
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ第十四條第一項第一號ノ二ノ所得ヲ除クノ外戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十五條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第三十七條　五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第五十八條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セザルトキハ政府ニ於テ調査未濟ノ所得金額ヲ決定ス

第三十八條　政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十九條　前三條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

本法施行地内ニ住所及居所ヲ有セザル納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サザルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第五章　所得調査委員會

第四十條　各税務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ税務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

所得調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ增減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十一條　所得調査委員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

所得調査委員ヲ選擧スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補缺員ヲ選擧スベシ

第四十二條　所得調査委員及補缺員ノ選擧區域ハ所得調査委員會ヲ置クベキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村ニ準ズベキモノヲ町村ト看做ス

第四十三條　選擧區域内ニ居住シ第三十六條第一項ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選擧人名簿ニ登錄セラレタルモノハ所得調査委員及補缺員ヲ選擧シ又ハ所得調査委員若ハ補缺員ニ選擧セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　無能力者

二　破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三　國税滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經ザル者

四　六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六　第九十四條又ハ第九十五條ノ規定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リタル後又ハ時效ニ因ル場合ヲ除クノ外執行ノ免除ヲ受ケタル後五年ヲ經ザル者

七　第八十八條乃至第九十五條又ハ營業税法第三十三條乃至第三十五條ノ

第五十一條　五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未濟ノ所得金額ヲ決定ス

第五十二條　政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十九條　第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ税額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第二十八條　各税務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ税務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ增減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　調査委員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

調査委員ヲ選擧スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選擧スヘシ

第三十條　調査委員及補闕員ノ選擧區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第三十一條　選擧區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選擧人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選擧シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選擧セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　無能力者

二　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三　國税滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六　第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益税法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選擧ヲ行フ場合ニ於テハ前年

規定ニ依リ罰金又ハ科料ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選擧ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三十六條第一項ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ被相續人ニ付爲シタル所得金額又ハ純益金額ノ決定ハ之ヲ相續人ニ付爲シタル所得金額又ハ純益金額ノ決定ト看做シ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ之ヲ相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ト看做ス

選擧人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長之ヲ擔任シ選擧會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第四十二條第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ、町村制ヲ施行セザル地ニ付テハ町村長ニ準ズベキモノヲ町村長ト看做ス

第四十五條　稅務署長ハ所得調査委員及補缺員ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長ニ通知スベシ

市區町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日七日前其ノ旨ヲ公示スベシ

第四十六條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ所得調査委員及補缺員ノ各選擧ニ付一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ投票所ニ到リ被選擧人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スベシ

投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付ス

第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

選擧人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選擧會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十條第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス

第三十三條　稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十四條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選擧ニ付一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ投票所ニ至リ被選擧人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付ス

第四十七條　市區町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第四十八條　稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選擧會ヲ開キ之ヲ調査スベシ

第四十九條　投票、開票及選擧會ニハ立會人ヲ立會ハシムベシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同ジキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

所得調査委員ニ當選シタル者同時ニ補缺員ニ當選スルモ補缺員タルコトヲ得ズ

第五十一條　所得調査委員及補缺員ノ選擧終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長ニ通知スベシ

市區町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スベシ

第五十二條　所得調査委員又ハ補缺員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第五十三條　所得調査委員及補缺員ノ任期ハ選擧期日ノ屬スル月ヨリ四年トス

選擧區域ノ變更ニ因リ其ノ區域內ニ於ケル第三十六條第一項ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ增減ヲ來シタル場合ニ於テハ所得

第三十五條　市區町村長又ハ戶長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十六條　稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選擧會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條　投票、開票及選擧會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條　投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十九條　調査委員及補闕員ノ選擧終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條　調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條　調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧期日ノ屬スル月ヨリ四年トス

選擧區域ノ變更ニ因リ其ノ區域內ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ增減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選

調査委員及補缺員ノ任期ハ選擧區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選擧區域ノ變更ノ月ガ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

第四十三條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選擧區域ノ變更アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　所得調査委員及補缺員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第五十五條　所得調査委員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補缺員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同ジキトキハ年齢多キ者ヲ取リ年齢同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

所得調査委員ニ缺員ヲ生ジ之ヲ補充スベキ補缺員ナキトキハ所得調査委員ノ補缺選擧ヲ行フ

第五十六條　前條ノ規定ニ依リ所得調査委員又ハ補缺員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選擧區域ノ變更ニ因リ新ニ選擧セラレタル所得調査委員及補缺員ノ任期ハ選擧區域變更前ニ於ケル所得調査委員及補缺員ノ選擧期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第五十七條　所得調査委員又ハ補缺員第四十三條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三十六條第一項ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セザルニ至リタルトキ又ハ其ノ選擧區域內ニ居住セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十八條　所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以內トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第六十條　所得調査委員會ハ每年開會ノ始ニ於テ所得調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スベシ

第六十一條　稅務署長ハ每年第三十六條第一項ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ第二十五條ノ規定ニ依ル控除ニ因リ徵收稅額ナシト認ムル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

前二項ノ規定ハ第三十六條第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレバ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六十三條　所得調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍內ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ズ

第六十四條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十五條　所得調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第六十六條　所得調査委員ハ自己ノ所屬スル所得調査委員會ノ調査ニ依リ決

擧區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選擧區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條　調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取リ年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選擧ヲ行フ

第四十四條　前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選擧區域ノ變更ニ因リ新ニ選擧セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選擧區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選擧期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條　調査委員又ハ補闕員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ選擧區域內ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十六條　所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以內トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條　所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條　所得調査委員會ハ每年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第二十七條　稅務署長ハ每年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十條　調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍內ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十三條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條　調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十四條ノ二　調査委員ハ自己ノ所屬スル所得調査委員會ノ調査ニ依リ決

定セラレタル課税標準額ニ對スル審査ノ請求、訴願又ハ行政訴訟ニ付納税義務者ノ代理ヲ爲シ若ハ其ノ相談ニ應ズルヲ以テ業ト爲シ又ハ報酬ヲ得テ此等ノ事務ヲ行フコトヲ得ズ

第六章　審査、訴願及行政訴訟

第六十七條　納税義務者第三十九條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セズ

第六十八條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十八條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ付之ヲ準用ス

第六十九條　各税務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ所得審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　税務監督局高等官中ヨリ大藏大臣ノ命ジタル者三人

二　税務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ所得調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、所得審査委員及其ノ補缺員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條　所得調査委員ヨリ選擧セラレタル所得審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第七十一條　第六十八條第一項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七章　徴收

第七十二條　甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ對スル分類所得税ハ支拂者支拂ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ

第七十三條　不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得税竝ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得税ハ其ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ直ニ其ノ所得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第三期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第四期　翌年二月一日ヨリ末日限

第七十四條　第七十二條ノ規定ニ依リ徴收スベキ分類所得税ヲ徴收セザルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國税徴收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徴收ス

法人解散シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ徴收セラルル税金ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務

定セラレタル課税標準額ニ對スル審査ノ請求、訴願又ハ行政訴訟ニ付納税義務者ノ代理ヲ爲シ若ハ其ノ相談ニ應スルヲ以テ業ト爲シ又ハ報酬ヲ得テ此等ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第六十條　納税義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算税額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セス

第六十一條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條　各税務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　收税官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二　税務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條　調査委員ヨリ選擧セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十六條　納税義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條第二項　第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第六十七條第三項　第三種ノ所得ニ付テハ所得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ徴收スヘキ所得税ヲ徴收セサルトキ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國税徴收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徴收ス

第六十九條　法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得税又ハ前條ノ規定ニ依リ徴收セラルル税金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ

アルモノトス

第八章　雜則

第七十五條　納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第七十六條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル所得稅ニ付輕減又ハ免除ニ關スル處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十七條　本法施行地ニ於テ利子ノ支拂ヲ爲スベキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者（委託募集ノ場合ハ委託ヲ受ケ募集シタル者）ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付命令ヲ以テ定ムル事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スベシ

第七十八條　本法施行地ニ於テ無記名ノ公債、社債又ハ株式ニ付利子又ハ配當ノ支拂ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ氏名又ハ名稱、住所其ノ他必要ナル事項ヲ利子又ハ配當ノ支拂ノ取扱者ニ告知スベシ

利子又ハ配當ノ支拂ノ取扱者ハ前項ノ告知ヲ爲サシメタル後其ノ支拂ヲ爲スベシ

第七十九條　俸給、給料、歲費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事項ヲ

其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第五十五條　本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一　公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額
二　利子支拂期限及利率
三　償還ノ方法及期限
四　數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

政府ニ申告スベシ

第八十條　左ニ揭グル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スベシ

一　俸給、給料、歲費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者
二　公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ノ支拂ヲ爲ス者
三　利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人

合同運用信託以外ノ信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スベシ

第八十一條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問ヲ爲シ又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第八十二條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第八十三條　政府ハ第七十二條ノ規定ニ依リ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所

第五十六條　第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歲費年金恩給賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第五十七條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第五十八條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十六條第三項　第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ

得税ヲ徴收シタル者及第八十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第八十四條　不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得税竝ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得税ハ納税義務者ノ住所地、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スベシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第八十五條　納税義務者納税地ニ現住セザルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サントスルトキ亦同ジ

第八十六條　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ株主若ハ社員又ハ之ト親族、使用人、命令ヲ以テ定ムル出資關係アル法人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

前項ノ同族會社トハ法人税法第十七條第三項ニ規定スル法人ヲ謂フ

第八十七條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ所得税ノ附加税ヲ課

對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第七十二條　第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ納税義務者ノ住所地、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納税地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第七十三條　納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

スルコトヲ得ズ

第九章　罰則

第八十八條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ第三十六條第一項ノ所得ニ付所得税ヲ逋脫シタル者ノ所得金額ハ同條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第八十九條　第六十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　正當ノ事由ナクシテ第八十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書若ハ計算書ヲ提出セズ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル支拂調書若ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條　無記名ノ公債、社債又ハ株式ニ付利子又ハ配當ノ支拂ヲ受クルニ際シ第七十八條第一項ニ規定スル事項ニ付虚僞ノ告知ヲ爲シタル者及同條第二項ノ規定ニ違反シ告知ヲ爲サシメズシテ支拂ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條　第八十一條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條　所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査

第七十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得税ヲ逋脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第七十四條ノ二　第五十四條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條第一項　正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條　所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又

又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條　所得調査委員、其ノ補缺員、所得審査委員又ハ其ノ補缺員ノ選擧ニ關シ當選ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與ヲ爲シ、饗應接待ヲ爲シ又ハ其等ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ供與若ハ饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ其等ノ申込ヲ承諾シタル者亦前項ニ同ジ前二項ニ規定スル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタル者亦第一項ニ同ジ

第九十五條　所得調査委員、其ノ補缺員、所得審査委員又ハ其ノ補缺員ノ選擧ニ關シ投票ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選擧人ニ面接シ若ハ電話ニ依リ選擧運動ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條　第八十八條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附則

第九十七條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條　不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ付テハ昭和十五年分分類所得稅ヨリ、個人ノ總所得ニ付テハ昭和十五年分綜合所得稅ヨリ本法ヲ適用ス

第九十九條　法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅竝ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第百條　第八條ノ規定ハ同條第二號及第三號ニ揭グル金額ニシテ本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ルモノニハ之ヲ適用セズ

第百一條　左ニ揭グル所得ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ所得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ所得金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

一　昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ有シタルニ非ザル資産、營業又ハ職業ノ所得

二　昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ支給ヲ受ケタルニ非ザル俸給、給料、歲費、費用辨償、年金及恩給竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第百二條　乙種ノ勤勞所得ニ屬スル賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ昭和十四年三月一日以後同年十二月三十一日迄ノ收入金額ニ限リ昭和十五年分ノ乙種ノ勤勞所得トシテ之ヲ計算ス

第百三條　昭和十四年分ノ第三種所得金額（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル）五千圓ヲ超ユル者ノ本法施行後昭和十五年七月三十一日迄ニ支

ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス但シ第七十四條ノ二及前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

拂ヲ受クル甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ第二十四條第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第百四條　第三十條第一項第二號ノ所得ニシテ其ノ支拂期ガ本法施行前ニ屬スルモノハ個人ノ總所得トシテ之ヲ計算セズ

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ昭和十四年三月一日以後同年十二月三十一日迄ノ收入金額ニ限リ昭和十五年分ノ個人ノ總所得トシテ之ヲ計算ス

第百五條　貯蓄銀行法第九條第一項ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ノ供託シタル國債ノ利子ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內百分ノ三ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

第百六條　個人ノ總所得中本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子竝ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ當分ノ內納稅義務者ノ申請ニ依リ他ノ所得ト之ヲ區分シ利子又ハ利益ノ支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課稅標準トシ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ其ノ綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得

前項ニ規定スル綜合所得稅ハ其ノ利子又ハ利益支拂ノ際支拂者ニ於テ之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ

第七十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十四條第六項又ハ第二十五條第六項ノ規定ハ第一項ニ規定スルモノノ外他ニ綜合所得稅ノ賦課ヲ受ケザル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第百七條　信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付從前ノ規

定ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額及資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該合同運用信託ノ利益ニ對スル分類所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅ハ甲種ノ配當利子所得ノ計算上當該合同運用信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第百八條　所得調査委員、其ノ補缺員、所得審査委員及其ノ補缺員ニ關シテハ昭和十五年七月三十一日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

第百九條　改正前ノ所得稅法第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經ザル者ハ第四十三條ノ規定ニ拘ラズ所得調査委員及補缺員ヲ選擧シ又ハ所得調査委員若ハ補缺員ニ選擧セラルルコトヲ得ズ

所得調査委員又ハ補缺員改正前ノ所得稅法第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第百十條　昭和十五年ニ限リ第二十四條第一項及第二十五條第一項ノ規定中一月一日トアルハ三月一日、第二十四條第六項ノ規定中七月一日トアルハ八月一日、第三十四條第一項ノ規定中三月十五日トアルハ四月三十日、第三十七條ノ規定中五月三十一日トアルハ六月三十日、第七十三條ノ規定中其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トス

第百十一條　宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ニ對シテハ所得稅ヲ課セズ

法人税法

法人税法

第一條　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人及本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スル法人ハ本法ニ依リ法人税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ對シテハ其ノ所得及資本ノ全部ニ付法人税ヲ賦課シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ニ對シテハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ノ所得及資本ニ付テノミ法人税ヲ賦課ス

現行法

（本法ニ付テハ改廢ノ箇所ノ傍線ヲ省略シタリ）

所得税法

第一條　本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

法人資本税法

第一條　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ハ本法ニ依リ法人資本税ヲ納ムル義務アルモノトス

所得税法

第二條　第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

一　本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二　本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

三　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

四　（省略）

法人資本税法

第三條　前條ノ規定ニ依リ法人稅ヲ賦課スル所得及資本ハ左ニ揭グルモノトス

一　各事業年度ノ所得

二　清算所得

三　各事業年度ノ資本

第四條　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ各事業年度ノ剩餘金ニ依ル

第二條　前條ノ規定ニ該當セサル法人本法施行地ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノミ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

所得稅法

第三條　所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲　法人ノ普通所得

乙　法人ノ超過所得

丙　法人ノ清算所得

第二種

甲　本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙　第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

丙　（省略）

第三種　（省略）

法人資本稅法

第三條　法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付之ヲ賦課ス

所得稅法

第四條　法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人稅及臨時利得稅ハ前項ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ各事業年度開始ノ日前一年以內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ所得ハ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ計算シタル金額ニ依ル

第五條　所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ法人稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

信託會社ノ各事業年度ノ所得ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第六條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額ガ解散當時ノ拂込株

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ普通所得ハ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

（第三項省略）

所得稅法

第三條ノ二　信託財產ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財產ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス

式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第七條　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越缺損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準ジ命令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第十一條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

所得稅法

第六條　法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第七條　本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

法人資本稅法

第四條　第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越缺損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ本法施行地ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準ジ命令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第八條　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第九條　本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第十條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得及資本ニ付法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

（第三項省略）

所得稅法

第四條第三項　法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

法人資本稅法

第四條第三項　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

所得稅法

第八條　本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

法人資本稅法

第五條　本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ所得稅法第四條第一項ノ規定ニ依ル法人ノ普通所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

所得稅法

第十二條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

法人資本稅法

第六條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十一條　北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ法人稅ヲ課セズ

第十二條　命令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造、採掘又ハ採取ヲ爲ス法人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付キ法人稅ヲ免除ス

第十三條　第四條ノ規定ニ依リ法人ノ各事業年度ノ所得ヲ計算スル場合ニ於テ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヨリ控除ス但シ國債ノ利子ガ外貨債特別稅又ハ配當利子特別稅ヲ課セラルルモノナルトキハ其ノ控除額ハ其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額ヨリ其ノ利子額ニ對スル外貨債特別稅相當額又ハ配當利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額トス

前項ノ規定ハ法人ノ清算所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條　法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅額ハ當該事業年度ノ所得金額ヨリ之ヲ控除ス

所得稅法

第十七條　北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

法人資本稅法

第七條　營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ法人資本稅ヲ課セズ

所得稅法

第十九條　勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

臨時租稅增徵法

第三條　所得稅法第四條ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得ヲ計算スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

前項ノ申請ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得金額ヨリ控除スベキ臨時利得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十五條　法人ノ清算期間中ニ於テ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル所得ニシテ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ法人ノ清算所得金額ヨリ之ヲ控除ス

第十六條　法人稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　各事業年度ノ所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人　所得金額ノ百分ノ十八

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人　所得金額ノ百分ノ二十八

二　清算所得　所得金額ノ百分ノ十八

三　各事業年度ノ資本　資本金額ノ千分ノ一・五

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ所得ニ對スル法人稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ法人ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セズ

前二項ノ規定ハ清算所得ニ對スル法人稅ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ算出シタル各事業年度ノ資本ニ對スル法人稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓トス

所得稅法

第二十一條　第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲　普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人　百分ノ五

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人　百分ノ十

乙　超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十

同百分ノ三十ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ二十

丙　清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額　百分ノ五

其ノ他ノ金額　百分ノ十

第四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得金額ナキ法人ノ當該事業年度ノ資本ニ對スル法人税ハ之ヲ免除ス第一項及前項ノ規定ニ依リ算出シタル各事業年度ノ資本ニ對スル法人税額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヨリ其ノ事業年度ノ所得ニ對スル法人税額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル各事業年度ノ資本ニ對スル法人税ニ付亦同ジ

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得税額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得税ニ付之ヲ準用ス

法人資本税法

第八條　法人資本税ノ税率ハ千分ノ一トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル税額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓トス

所得金額ナキ法人ノ法人資本税ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル税額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本税ニ付亦同ジ

所得税法第四條ノ規定ハ前項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

支那事變特別税法

第二條　所得税中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得税ニ付テハ臨時租税增徵法第二條ノ規定ニ拘ラズ所得税法第二十一條ニ規定スル税率百分ノ五ヲ百分ノ十二・二五、百分ノ十ヲ百分ノ二十二・五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル税額ヲ增徵ス

所得税中法人ノ超過所得ニ對スル所得税ニ付テハ同法第二十一條ニ規定スル税率ヲ以テ算出シタル税額ノ百分ノ十ニ相當スル税額ヲ增徵ス

前二項ノ規定ニ依ル普通所得及超過所得ニ對スル所得税ノ增徵税額ハ左ノ

第十七條　同族會社ガ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ二十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ四十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ五十、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ六十五ヲ乘ジタル合計金額ノ所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ税率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額（各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方）ニ付適用シテ算出シタル税額ヲ各事業年度ノ所得ニ對スル法人税ニ加算スルコトヲ得

一　各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二　各事業年度ノ所得中留保シタル金額ヨリ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額及其ノ事業年度末ニ於ケル積金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得税額（所得税法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スル税額ヲ含マズ）ト臨時利得税額トノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ

普通所得ノ百分ノ五十五ニ相當スル金額ヨリ普通所得中留保シタル金額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額

臨時租税增徵法

第二條　所得税中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得税ニ付テハ所得税法第二十一條ニ規定スル税率百分ノ五ヲ百分ノ十、百分ノ十ヲ百分ノ二十トシタル場合ノ差增額ニ相當スル税額ヲ增徵ス

所得税法

第二十一條ノ二　同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ税率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額（各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方）ニ付適用シテ算出シタル税額ヲ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スルコトヲ得

一　事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二　事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金

立金額ノ合計ガ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金額ガ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

前項ノ各事業年度ノ所得及所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法人税額（前項ノ規定ニ依リ加算スル税額ヲ含マズ）及第十四條ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得税額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除シタル殘額ニ依ル

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人、命令ヲ以テ定ムル出資關係アル法人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計ガ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第十八條　納税義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書竝ニ第四條乃至第九條ノ規定ニ依リ計算シタル所得金額及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得金額及資本金額ヲ政府ニ申告スベシ尚本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有

額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

支那事變特別税法

第三條　所得税中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スル税額ニ付テハ臨時租税增徵法第四條ノ規定ニ拘ラズ所得税法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル税額ノ百分ノ八十三・七五ニ相當スル税額ヲ增徵ス

同族會社ノ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スル税額ハ普通所得ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヨリ普通所得及超過所得ニ對スル所得税額（所得税法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ニ對スル所得税ニ加算スル税額ヲ含マズ）、臨時利得税額及前條ノ規定ニ依ル增徵税額ノ合計金額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユルコトヲ得ズ殘額ヲ超エザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ル增徵ニ因リ之ヲ超ユルニ至ルトキハ其ノ增徵税額ニ付亦同ジ

所得税法

第二十四條　第一種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書竝第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其

セザル法人ハ右ノ外本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得金額ノ明細書及本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル資本金額ノ明細書ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ第一條ニ規定スル法人ニ法人税ヲ課スベキ所得又ハ資本ナキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十九條　法人ノ所得金額及資本金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第二十條　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納税義務アル法人又ハ納税義務アリト認ムル法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得税ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

法人資本税法

第九條　納税義務者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ資本額ヲ政府ニ申告スベシ

所得税法

第二十六條　第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

（第二項及第三項省略）

法人資本税法

第十條　資本額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得税法

第五十七條　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納税義務者、納税義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

法人資本税法

第十一條　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納税義務者又ハ

第二十一條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人若ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ納稅義務アル法人若ハ納稅義務アリト認ムル法人ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第二十二條　第十九條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額及資本金額ヲ決定シタルトキ又ハ第十七條ノ規定ニ依リ稅額加算ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第二十三條　納稅義務アル法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額、資本金額又ハ加算稅額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

所得稅法

第五十八條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

所得稅法

第五十九條　第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

（第二項省略）

法人資本稅法

第十二條　第十條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

所得稅法

第六十條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

法人資本稅法

第二十四條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十五條　前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル法人ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　法人稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス但シ淸算所得ニ對スル法人稅

第十三條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

所得稅法

第六十一條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

法人資本稅法

第十四條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

所得稅法

第六十六條　納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

法人資本稅法

第十五條　前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

所得稅法

ハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徴收ス

第二十七條　法人解散シタル場合ニ於テ各事業年度ノ所得若ハ資本ニ對スル法人税又ハ清算所得ニ對スル法人税ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

第二十八條　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ所得金額及資本金額ヲ計算スルコトヲ得

第六十七條　第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得税ヲ徴收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徴收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

（第三項以下省略）

法人資本税法

第十六條　法人資本税ハ事業年度毎ニ之ヲ徴收ス

所得税法

第六十九條　法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得税又ハ前條ノ規定ニ依リ徴收セラルル税金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

所得税法

第七十三條ノ二　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

法人資本税法

第十七條　同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本税逋脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ資本額ヲ計算スルコトヲ得

前項ニ於テ同族會社トハ所得税法ニ規定スル同族會社ヲ謂フ

第二十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ自首シ又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第三十條　第二十條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　法人ノ所得又ハ資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

所得税法

第七十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得税ヲ逋脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

法人資本税法

第十八條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

法人資本税法

第十九條　第十一條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

所得税法

第七十六條　所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人資本税法

第二十條　資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又

第三十二條　第二十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第三十三條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ法人稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附　則

第三十四條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條　各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第三十六條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅竝ニ清算所得ニ對スル第一種所得稅及第一種所得稅附加稅ニ付亦同ジ

第三十七條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ハ第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ法人ノ各事業年度ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第三十八條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ又ハ本法施行後ニ於ケル解散ニ因ル清算ノ期間中ニ法人ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額及資本利子稅額ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額ト看做シ第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル鑛產稅額、特別鑛產稅額又ハ取引所營業稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ當該事業年度ノ所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除ス

第四十條　法人ガ本法施行後終了スル事業年度ニ於テ公債及社債利子稅ヲ課セラルル國債ヲ所有スルトキハ其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額ニ對スル公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ第十三條ノ規定ヲ適用ス

第四十一條　宗教團體法第二十二條中「所得稅」ノ下ニ「及法人稅」ヲ加フ

宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ニ對シテハ法人稅ヲ課セズ

ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

所得稅法

第七十七條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス但シ第七十四條ノ二及前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

法人資本稅法

第二十一條　第十八條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

法人資本稅法

第二十四條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

配當利子特別稅法

（本法ニ付テハ改廢ノ箇所ノ傍線ヲ省略シタリ）

改正法

配當利子特別稅法

第一條　本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者及本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ配當利子特別稅ヲ課ス

第二條　配當利子特別稅ハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付之ヲ賦課ス

第三條　利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル

第四條　左ニ掲グル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニハ配當利子特別稅ヲ課セズ

現行法

支那事變特別稅法中利益配當稅、公債及社債利子稅ニ關スル規定

第一條　當分ノ內本法ニ依リ、、、利益配當稅、公債及社債利子稅、、、ヲ課ス

第十二條　利益配當稅ハ本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

、、、

第十五條　公債及社債利子稅ハ本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

、、、

第十三條　利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ、、、

第十六條　公債及社債利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（外貨債特別稅法第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ、、、

第十二條　、、、

所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當

一　所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ受クル利益ノ配當又ハ其ノ所有ニ屬スル公債若ハ社債ノ利子

二　配當率年一割以下ノ利益ノ配當

三　利率年四分以下ノ國債ノ利子又ハ利率年四分五厘以下ノ國債以外ノ公債若ハ社債ノ利子

四　外貨債特別稅法第一條第二項ニ規定スル外貨債ノ利子

第五條　配當利子特別稅ノ稅率左ノ如シ

一　利益ノ配當

配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

二　公債又ハ社債ノ利子

甲　國債

利子金額中利率年四分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

乙　國債以外ノ公債又ハ社債

利子金額中利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

稅ヲ課セズ

第十三條　、、、配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額、、、

第十五條　、、、所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十六條　公債及社債利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債（外貨債特別稅法第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク）ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額、、、

第十三條　、、、左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十

同年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額　百分ノ十五

第六條　配當利子特別稅ハ配當又ハ利子支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第七條　前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ配當利子特別稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ配當又ハ利子ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第九條　所得稅法第八十六條ノ規定ハ配當利子特別稅ニ付之ヲ準用ス

第十條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ配當利子特別稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十一條　配當又ハ利子ノ支拂ヲ爲スト認ムル者第八條ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條　、、、利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條　利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十七條　公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第五十三條　第十四條、、、ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅、公債及社債利子稅、、、ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十二條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十三條　配當利子特別税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ配當利子特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附　則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別税法ニ依リ利益配當税又ハ公債及社債利子税ヲ課スル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付テハ當該利益配當税又ハ公債及社債利子税ヲ配當利子特別税ト看做シ第十三條ノ規定ヲ適用ス

外貨債特別税法

改正法

第二條　外貨債特別税ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

所得税法第六條(第一項但書ヲ除ク)ノ規定ハ信託財産タル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第四條　左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

一　所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二　利率年四分以下ノ外貨國債ノ利子

三　利率年四分五厘以下ノ外貨國債以外ノ外貨債ノ利子

四　起債者ガ外貨債利子ニ對スル租税ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條　外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年四分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十五條　所得税法第八十四條第一項、第八十五條竝ニ法人税法第十條ノ規定ハ外貨債特別税ニ付之ヲ準用ス

現行法

第二條　外貨債特別税ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

所得税法第三條ノ二第一項(但書ヲ除ク)及第二項ノ規定ハ信託財産タル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第四條　左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

一　所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二　證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子

三　利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

四　利率年五分五厘以下ノ外貨國債以外ノ外貨債ノ利子

五　起債者ガ外貨債利子ニ對スル租税ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條　外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年四分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十五條　所得税法第十二條、第七十二條第一項及第七十三條ノ規定ハ外貨債特別税ニ付之ヲ準用ス

第十六條　法人税法第十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別税ヲ課セズ

第十八條　外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子額ト看做ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條、第四條及第五條ノ改正規定ハ支拂期ガ昭和十五年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

第十六條　大正九年法律第十二號第三條ノ規定ハ外貨債特別税ニ付之ヲ準用ス但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別税ヲ課セズ

第十八條　外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税（第一種所得税ヲ除ク）又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

相續税法

改正法

第五條ノ二　本法施行地ニ住所ヲ有スル者ノ死亡ニ因ル家督相續ニシテ其ノ課税價格五萬圓以下ノモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ課税價格ヨリ相續開始當時ノ被相續人ノ同居家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上又ハ不具癈疾ノ者一人ニ付千圓ヲ控除ス

本法施行地ニ住所ヲ有スル者ノ死亡ニ因ル遺産相續ニシテ其ノ課税價格三萬圓以下ノモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ課税價格ヨリ相續開始當時被相續人ノ親權ニ服シ且被相續人ト同居スル子ノ中年齡十八歲未滿又ハ不具癈疾ノ者一人ニ付千圓ヲ控除ス

前二項ノ規定ニ依リ控除スヘキ金額ハ課税價格ヨリ遺贈ノ價額及第三條ノ規定ニ依リ相續財産ノ價額ニ加ヘタル贈與ノ價額ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ヲ超ユルコトナシ

第一項及第二項ニ規定スル不具癈疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　課税價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺産相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相續税ヲ課セス前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲課税價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺産相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキ亦同シ

第八條　相續税ハ課税價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種

現行法

第六條　課税價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺産相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相續税ヲ課セス

類ニ從ヒ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課税價格	税率		
	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
一萬圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ二十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ四十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ四十	千分ノ六十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ五十	千分ノ八十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ七十	千分ノ百
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ九十	千分ノ百二十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百十	千分ノ百五十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十	千分ノ百三十	千分ノ百八十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ百五十	千分ノ二百十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百七十	千分ノ二百四十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百七十	千分ノ百九十	千分ノ二百七十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百九十	千分ノ二百二十	千分ノ三百
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百十	千分ノ二百五十	千分ノ三百三十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	千分ノ二百八十	千分ノ三百六十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百七十	千分ノ三百十	千分ノ三百九十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百	千分ノ三百四十	千分ノ四百二十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百三十	千分ノ三百七十	千分ノ四百五十

遺産相續

課税價格	税率		
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ四十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ六十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ八十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ七十	千分ノ百
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ九十	千分ノ百二十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ百	千分ノ百四十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百三十	千分ノ百六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百五十	千分ノ百八十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百八十	千分ノ二百十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ二百十	千分ノ二百四十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百十	千分ノ二百四十	千分ノ二百七十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	千分ノ二百七十	千分ノ三百
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百七十	千分ノ三百	千分ノ三百三十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百	千分ノ三百三十	千分ノ三百六十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百三十	千分ノ三百六十	千分ノ三百九十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百七十	千分ノ三百九十	千分ノ四百三十

第十條　相續税ニ付テハ相續税法第八條第一項ノ規定ニ拘ラズ課税價格ヲ左ノ各級ニ區分シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續

課税價格	税率		
	相續人ガ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人ガ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ夫ナルトキ	相續人ガ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ九	千分ノ十二
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九	千分ノ十二	千分ノ十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ二十二
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十二	千分ノ二十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ二十五	千分ノ三十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ三十五	千分ノ四十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ五十	千分ノ六十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	千分ノ六十五	千分ノ八十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ八十	千分ノ百
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百	千分ノ百二十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百四十	千分ノ百四十	千分ノ百六十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十	千分ノ百六十	千分ノ百八十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ百八十	千分ノ二百
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百	千分ノ二百	千分ノ二百二十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十	千分ノ二百二十	千分ノ二百四十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	千分ノ二百四十	千分ノ二百六十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百六十	千分ノ二百六十	千分ノ二百八十

遺産相續

課税價格	税率		
	相續人ガ直系卑屬ナルトキ	相續人ガ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人ガ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十三	千分ノ三十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十三	千分ノ三十	千分ノ五十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十五	千分ノ七十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ六十	千分ノ九十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ八十	千分ノ百十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ百	千分ノ百三十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百二十	千分ノ百五十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百四十	千分ノ百七十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百四十	千分ノ百六十	千分ノ百九十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十	千分ノ百八十	千分ノ二百十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ二百十	千分ノ二百二十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百	千分ノ二百二十	千分ノ二百三十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百二十	千分ノ二百三十	千分ノ二百五十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百三十	千分ノ二百五十	千分ノ二百八十

百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百九十	千分ノ三百十	千分ノ三百四十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百二十	千分ノ三百四十	千分ノ三百七十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百五十	千分ノ三百七十	千分ノ四百
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百八十	千分ノ四百	千分ノ四百三十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百十	千分ノ四百四十	千分ノ四百七十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百五十	千分ノ四百八十	千分ノ五百十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百九十	千分ノ五百二十	千分ノ五百五十

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺産相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第八條　相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

家督相續			
課稅價格	稅率		
	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ五	千分ノ六	千分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ六	千分ノ七	千分ノ十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七	千分ノ八	千分ノ十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八	千分ノ十	千分ノ二十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ三十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十	千分ノ四十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ五十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十	千分ノ六十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ七十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ八十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ九十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ九十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ百
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百二十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百	千分ノ百十	千分ノ百三十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十	千分ノ百二十	千分ノ百四十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十	千分ノ百三十	千分ノ百五十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ百四十	千分ノ百六十

遺産相續			
課稅價格	稅率		
	相續人カ直系卑屬ナルトキ	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他ノ者ナルトキ
千圓以下ノ金額	千分ノ十	千分ノ十一	千分ノ十七
千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十二	千分ノ十四	千分ノ二十五
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十四	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十五
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ四十五
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十五	千分ノ五十五
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十五	千分ノ六十五
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十五	千分ノ七十五
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十五	千分ノ八十五
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十五	千分ノ七十五	千分ノ九十五

第十二條ノ三　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ被相續人、納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十二條ノ四　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ第十二條ノ二第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第十七條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ七年以內ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

相續稅ヲ課スヘキ相續財產ノ價額中不動產及不動產ノ上ニ存スル權利竝ニ信託財產タル不動產ノ元本ノ利益ヲ受クヘキ權利ノ價額ノ合計額カ相續財產ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ前項但書ノ期間ハ之ヲ十年以內トス

納稅義務者前二項ノ規定ニ依リ年賦延納ヲ求メムトスルトキハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以內ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納稅義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル

納稅義務者帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三月トス

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ贈與ノ價額カ千圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ本法施行地ニ住所ヲ有セサル者ノ爲シタル贈與ニ在リテハ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタルモノニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ贈與前三年以內ニ同一人ニ對シ爲シタル贈與（朝鮮、臺

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺產相續ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相續人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第十二條ノ三　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ被相續人、納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第十二條ノ四　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ被相續人、納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第十七條　相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ七年以內ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

納稅義務者前項ノ規定ニ依リ年賦延納ヲ求メムトスルトキハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以內ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納稅義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル

納稅義務者帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三月トス

臨時租稅增徵法

第十一條　相續稅ヲ課スベキ相續財產ノ價額中不動產及不動產ノ上ニ存スル權利竝ニ信託財產タル不動產ノ元本ノ利益ヲ受クベキ權利ノ價額ノ合計ガ相續財產ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ相續稅法第十七條第一項但書ノ期間ハ之ヲ十年內トス

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ贈與ノ價額カ千圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財產ノ價額ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ本法施行地ニ住所ヲ有セサル者ノ爲シタル贈與ニ在リテハ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタルモノニ限ル

一　親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二　分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動產又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依

十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十五	千分ノ百五	千分ノ八十五	千分ノ百五
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十五	千分ノ九十五	千分ノ百十五	千分ノ九十五	千分ノ百十五
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	千分ノ百五	千分ノ百十五	千分ノ百五	千分ノ百二十五
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五	千分ノ百十五	千分ノ百二十五	千分ノ百十五	千分ノ百三十五
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十五	千分ノ百二十五	千分ノ百三十五	千分ノ百二十五	千分ノ百四十五
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百二十五	千分ノ百三十五	千分ノ百四十五	千分ノ百三十五	千分ノ百五十五
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十五	千分ノ百五十	千分ノ百六十	千分ノ百五十五	千分ノ百六十五
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ百六十五	千分ノ百七十五	千分ノ百六十五	千分ノ百八十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百六十五	千分ノ百八十	千分ノ百九十	千分ノ百八十	千分ノ百九十五
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ百九十	千分ノ二百十	千分ノ百九十	千分ノ二百十

灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シタル當時爲シタル贈與ヲ含ム）ニシテ價額千圓以上ノモノアルトキハ其ノ贈與ノ價額ヲ前項ノ贈與ノ價額ニ加算シテ得タル金額ニ對シ第八條ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヨリ加算シタル贈與ノ價額（二以上ノ贈與アルトキハ其ノ價額ノ合計額）ニ對シ同條ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

不動產又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登錄稅額カ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ第一項又ハ前項ノ相續稅額ヨリ控除ス

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條ノ三　第十二條ノ四ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第八條ノ改正規定ハ隱居ニ因リ開始シタル家督相續ニ在リテハ昭和十五年一月一日以後ニ開始シタルモノ、第二十三條第一項ニ規定スル贈與ニ在リテハ同日以後ニ爲シタルモノニ付之ヲ適用シ第二十三條ノ改正規定ハ同日以後ニ爲シタル贈與ニ付之ヲ適用ス

リ其ノ登錄稅額カ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ前項ノ相續稅ヨリ控除ス

第一項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十條ノ規定ヲ適用セス

建築稅法

改正法

建築稅法

第一條　本法施行地ニ於テ左ニ揭グル家屋ヲ建築（增築及改造ヲ含ム以下同ジ）シタル者ニハ本法ニ依リ建築稅ヲ課ス

一　居住ノ用ニ供スル家屋

二　料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

三　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳鬪其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ノ開催ノ用ニ供スル家屋

第二條　建築稅ハ家屋（附屬工作物ヲ含ム以下同ジ）一構每ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一構ノ家屋ノ一部ガ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス

第三條　第一條ニ揭グル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年以內ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルベキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通ジテ一建築

現行法

支那事變特別稅法

第一條　當分ノ內本法ニ依リ、、、建築稅、、、ヲ課ス

第十八條ノ二　建築稅ハ左ニ揭グル家屋ヲ建築（增築及改造ヲ含ム以下同ジ）シタル者ニ之ヲ課ス

一　居住ノ用ニ供スル家屋

二　料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

三　演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳鬪其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ノ開催ノ用ニ供スル家屋

第十八條ノ三　建築稅ハ家屋（附屬工作物ヲ含ム以下同ジ）一構每ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一構ノ家屋ノ一部ガ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス

第十八條ノ四　第十八條ノ二ニ揭グル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年內ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルベキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通

ト看做シ本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ建築税ヲ課スベキ場合ニ於テ既ニ建築税ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築税ニ相當スル金額ヲ建築税額ヨリ控除ス

第四條　建築税ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第五條　左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築税ヲ課セズ

一　建築價額一萬圓未滿ノ家屋

二　公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第六條　左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築税ヲ免除ス

一　災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

二　法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第七條　建築税ニ付納税義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スベシ

第八條　建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ジテ一建築ト看做シテ本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ建築税ヲ課スベキ場合ニ於テ既ニ建築税ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築税ニ相當スル金額ヲ建築税額ヨリ控除ス

第十八條ノ五　建築税ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十八條ノ六　左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築税ヲ課セズ

一　建築價額一萬圓未滿ノ家屋

二　公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第十八條ノ七　左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築税ヲ免除ス

一　災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

二　法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第十八條ノ八　建築税ニ付納税義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スベシ

第十八條ノ九　建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

建築價額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第十八條ノ十　建築税ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス

第十八條ノ十一　建築税ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納税地トス

納税義務者納税地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納税其ノ他建築税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ

第十八條ノ十二　本法ノ適用ニ付テハ被相續人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相續人ノ爲シタルモノト看做シ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス

第五十四條第一項　收税官吏ハ建築税ニ付家屋ヲ建築シタル者、建築工事請負人、建築工事管理者若ハ建築材料供給者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ家屋、建築ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第五十五條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ、、、又ハ建築税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　（省略）

二　（省略）

三　第五十四條第一項、、、ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲

建築價額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第九條　建築税ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス

第十條　建築税ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納税地トス

納税義務者納税地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納税其ノ他建築税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ

第十一條　本法ノ適用ニ付テハ被相續人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相續人ノ爲シタルモノト看做シ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條　收税官吏ハ家屋ヲ建築シタル者、建築工事請負人、建築工事管理者若ハ建築材料供給者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ家屋、建築ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ建築税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十四條　第十二條ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第五十九條　第五十五條、、、ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十一條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ增徵スル稅額（第七條ノ規定ニ依リ增額ト爲ル分ヲ含マズ）又ハ本法ニ依リ課スル、、、建築稅、、、ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル市町村ニ限リ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ依リ課スル所得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第十五條　第十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那事變特別稅法ニ依リ課セラレタル建築稅ハ之ヲ本法ニ依リ課セラレタル建築稅ト看做ス

稅制改正ニ關スル法律案新舊對照表ノ二正誤表

頁	行	正	誤
二	下段一四行目	「信託會社ノ所得計算ニ付テハ、、、、、」ハ別行	
一八	下段一〇行目	千五百圓	千百五圓
三四	上段九行目	「前二項ニ規定スル、、、、、」ハ別行	
三九	上段六行目	所得及之ニ關スル資本	所得及資本
六〇	上段一行目	第十條ノ罪	前條ノ罪
六一	上段一五行目	第一項及第八十五條	第一項、第八十五條
九二	下段三行目乃至五行目	三行目ノ六字目以下第一項全部ニ傍線ヲ施ス	
一〇〇	下段八行目ト九行目ノ間	營業收益稅法ヲ挿入	

一〇九	上段	九行目	「土地ノ賃貸價格ノ合計金額トニ依リ」ノ次ニ各別ニヲ加フ
一四二	上段	六行目	ニ於テ酒類ニ種類ノ
一七七	上段	一六行目	角砂糖、棒砂糖
一八七	下段	七行目	用ヰタル織物
一八九	上段	一二行目	該當スル者
〃	下段	一五行目	調製。
二四五	下段	七行目	「麻ヲ用ヒタル絲、、、、、」ハ別行
			ニ於テ種類ノ
			角砂糖棒砂糖
			用ヒタル織物
			該當セル者
			調整。

鑛區稅法

（本法ニ付テハ改廢ノ箇所ノ傍線ヲ省略シタリ）

改正法

第一條　本法施行地ニ在ル鑛區及砂鑛區ニハ本法ニ依リ鑛區稅ヲ課ス

第二條　鑛區稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　試掘鑛區　面積千坪毎ニ　三十錢

二　採掘鑛區　面積千坪毎ニ　六十錢

現行法

鑛業法

第八十一條　鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製錬スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

砂鑛區稅法

第一條　砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス（左記略）

臨時租稅措置法

第二十條　砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス（左記略）

鑛業法

第八十三條　鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

三　砂鑛區

河床　延長一町毎ニ　三十錢

河床ニ非ザルモノ　面積千坪毎ニ　三十錢

前項ノ場合ニ於テ千坪未滿又ハ一町未滿ノ端數ハ之ヲ千坪又ハ一町トシテ計算ス

第三條　鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ徵收ス

鑛區又ハ砂鑛區ノ合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル場合ヲ除クノ外鑛業權（砂鑛權ヲ含ム以下同ジ）ノ設定又ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ依ルモノハ直ニ之ヲ徵收ス

試掘權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ル鑛區稅及前項ノ規定ニ依リ徵收スベキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第一條　砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス

河床　砂鑛區域一町毎ニ　金三十錢

河床ニ非サルモノ　砂鑛區域千坪毎ニ　金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算ス

臨時租稅措置法

第二十條　砂金以外ノ砂鑛ノ採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ稅率ニ依リ毎年特別砂鑛區稅ヲ課ス

河床　砂鑛區域一町毎ニ　金三十錢

河床ニ非ザルモノ　砂鑛區域千坪毎ニ　金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ千坪未滿ノ端數ハ之ヲ一町又ハ千坪トシテ計算ス（第三項及第四項省略）

鑛業法

第八十四條　鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

砂鑛區稅法

第四條　鑛區稅ハ納期開始ノ時ニ於ケル鑛業權者（砂鑛權者ヲ含ム以下同ジ）ヨリ之ヲ徵收ス

共同鑛業權者ハ連帶シテ納稅ノ義務ヲ負フ

公賣及競賣以外ノ原因ニ因リ鑛業權ノ移轉アリタル場合ニ於テ未納ニ係ル鑛區稅アルトキハ新鑛業權者ハ當該鑛區稅ニ付舊鑛業權者ト連帶シテ納稅ノ義務ヲ負フ

第五條　鑛業權者鑛業代理人（砂鑛業代理人ヲ含ム以下同ジ）ヲ選任シタルトキハ其ノ鑛業代理人ハ鑛區稅ニ關スル事項ノ處理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

納稅義務者及鑛業代理人鑛區又ハ砂鑛區ノ所在地ヲ管轄スル稅務署ノ管轄區域內ニ現住セザルトキハ鑛區稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ

第二條　砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

臨時租稅措置法

第二十條第三項

特別砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

鑛業法

第八十七條　共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス（第二項省略）

鑛業法

第八十八條　北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各左ノ制限內ノ附加稅ヲ

附則

課スルコトヲ得

一　北海道、府縣

試掘鑛區稅　千分ノ三十

採掘鑛區稅　千分ノ七十

鑛　產　稅　千分ノ二百

二　市町村

試掘鑛區稅　千分ノ三十

採掘鑛區稅　千分ノ七十

鑛　產　稅　千分ノ千二百

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區竝間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

砂鑛區稅法

第三條　北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

臨時租稅措置法

第二十條第四項

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ特別砂鑛區稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第六條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條　砂鑛區稅法ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十五年分以前ノ砂鑛區稅及同附加稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第八條　鑛業法中左ノ通改正ス

第十三條　削除

第四十一條中「鑛業稅」ヲ「鑛區稅」ニ改ム

第七章　削除

第八十一條乃至第八十八條　削除

第百一條　削除

第九條　昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及同附加稅竝ニ昭和十五年分以前ノ鑛區稅及同附加稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ昭和十五年一月一日以後昭和十五年三月三十一日迄ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅ハ昭和十五年六月中ニ之ヲ徵收ス

第十條　北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ昭和十六年度分迄直接鑛業又ハ砂鑛業ノ用ニ供スル家屋ニ對シテ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十一條　砂鑛法第二十三條中「第八十七條乃至第八十九條」ヲ「第八十九條」ニ改ム

鑛區稅法ノ附則ニ依リ改正セラルル鑛業法及砂鑛法

改正法

鑛業法

第十三條　削除

第四十一條　鑛業權者第七十二條若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛區稅ヲ納メサルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第七章　削除

第八十一條乃至第八十八條　削除

第百一條　削除

砂鑛法

第二十三條　鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第百三條及第百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

現行法

鑛業法

第十三條　本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第四十一條　鑛業權者第七十二條若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第七章　鑛業稅

第八十一條乃至第八十八條　（省略）

第百一條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

砂鑛法

第二十三條　鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第百三條及第百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

臨時利得稅

改正法

第三條　臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　所得稅法第十條ニ揭グル營業ニ因ル個人ノ利得（營業利得ト稱ス以下同ジ）

三　船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得（讓渡利得ト稱ス以下同ジ）

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス

現行法

第三條　臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　營業收益稅法第二條ニ揭グル營業（鑛業又ハ砂鑛業ヲ含ム）ニ因ル個人ノ利得

三　船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得（讓渡利得ト稱ス以下同ジ）

前項第一號及第二號ノ利得ハ各之ヲ甲種利得及乙種利得ノ二種トス

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ昭和六年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（甲既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ甲種利得トシ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部（乙既往事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ法人ノ乙種利得トス

第四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依リ平均利益ヲ計算ス

一　甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ガ甲既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ七未滿、乙既往事業年度ニ在リテハ年百分ノ十未滿ナルトキハ甲既往事業年度ニ在リテハ平均資本

金額ニ對シ年百分ノ七、乙既往事業年度ニ在リテハ平均資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ各其ノ既往事業年度ノ平均利益トス

二　法人ノ第一次事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ於テ終了シタル場合ニ於テハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

三　現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ比較シ增減アルトキハ比較セラレタル既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ既往事業年度ノ平均利益トス但シ法人ノ現事業年度ノ資本金額ガ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ニ比較シ增加シタル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ヲ超過スルトキハ其ノ法人ニ付テハ現事業年度ノ資本金額中甲既往事業年度ノ平均資本金額又ハ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル部分ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト其ノ他ノ部分ニ對シ甲既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ヲ以テ甲既往事業年度ノ平均利益トシ現事業年度ノ資本金額中乙既往事業年度ノ平均資本金額又ハ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル部分ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト其ノ他ノ部分ニ對シ乙既往事業年度ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ヲ以テ乙既往事業年度ノ平均利益トス

前項ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ現事業年度ノ資本金額ヲ以テ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四　現事業年度ノ期間ガ甲既往事業年度ニ屬スル各事業年度又ハ乙既往事業年度ニ屬スル各事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往ノ各事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ月數ノ既往各事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第四條ノ三　法人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第四條ノ四　法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額年千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ年千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　法人ノ利益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ現事業年度ノ剩餘金ニ依ル

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人稅及臨時利得稅竝

ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル分類所得稅ニシテ法人稅法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ現事業年度開始ノ日前一年以內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

第五條ノ二　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條ノ三　所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ臨時利得稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

信託會社ノ現事業年度ノ利益ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第六條　法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條　本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第九條　個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

第九條ノ二　前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

前項ニ於テ積立金額ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

昭和七年一月一日以後本法施行ニ至ル迄ノ期間ニ於テ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ減少シタル法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第七條　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ甲既往事業年度又ハ乙既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第九條　個人ノ利益ガ昭和六年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ甲種利得トシ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ個人ノ乙種利得トス

第九條ノ二　前條ノ規定ニ依リ利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和六年以前三年ノ平均利益ガ三千圓未滿ナルトキハ三千圓、昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ五千圓未滿ナルトキハ五千圓ヲ以テ各其ノ平均利益トス

第九條ノ三　個人ノ甲種利得ニシテ臨時利得稅ヲ課セラルル乙種利得ニ屬スルモノアルトキハ其ノ部分ハ之ヲ甲種利得ヨリ控除ス

第九條ノ四　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ甲種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ、一萬五千圓未滿ナルトキハ乙種利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十條　個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十一條　個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十二條　營利ヲ目的トセザル法人ニシテ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ二十五

個人ノ利益ガ一萬圓以上ナル場合ニ於テ甲種利得ノ金額千圓未滿ナルトキ又ハ一萬五千圓以上ナル場合ニ於テ乙種利得ノ金額千圓未滿ナルトキハ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲甲種利得ノ金額ガ千圓未滿ト爲ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

第十一條　個人ノ利益ガ六千圓未滿ナルトキハ甲種利得ニ對スル、一萬圓未滿ナルトキハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十二條　營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十四條　法人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ二十

乙種利得　利得金額ノ百分ノ四十

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル乙種利得ニ對スル稅率百分ノ四十ハ之ヲ百分ノ三十トス

法人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其

二　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ四十五

三　利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ六十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十四條ノ二　前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合ガ年百分ノ十未滿ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合ガ年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)乃至第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當ノ利得金額中年千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第十四條ノ二　個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲種利得　利得金額ノ百分ノ十二

乙種利得　利得金額ノ百分ノ二十五

讓渡利得　利得金額ノ百分ノ二十五

前條第三項ノ規定ハ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ利得金額中千圓ヲ控除シタル金額ヲ超過スル場合ニ付之ヲ準用ス但シ第九條ノ四第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

スル租税及臨時利得税竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税ニシテ所得税法ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得税額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第十四條ノ三　前條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

前項ノ增加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ四　法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十四條ノ五　個人ノ臨時利得税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

營業利得	利得金額ノ百分ノ三十
讓渡利得	利得金額ノ百分ノ二十五

第十六條　營業利得ニ付納税義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納税義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條　法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得ノ金額ハ所得税法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後營業利得ノ金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十六條　甲種利得又ハ乙種利得ニ付納税義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納税義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條　法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額ハ所得税法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付納税義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條　稅務署長ハ每年營業利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　所得稅法第三十七條、第三十八條及第六十三條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　削除

第二十四條　削除

ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條　稅務署長ハ每年個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　甲種利得又ハ乙種利得ニ付納稅義務アル個人ハ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額ニ減損アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ甲種利得又ハ乙種利得ノ金額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ利益二分ノ一以上減損セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

利得金額決定後營業繼續ニ因リ利得金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第二十四條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ利益ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ利得金額ヲ更訂ス

第二十四條ノ二　個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付利得金額決定後翌年利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ノ當該營業ノ實際利得額ガ決定利得額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ利得金額ノ決定ニ付脫漏アリタルモノト看做シ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於

第二十五條　第二十二條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　法人ノ利得ニ付テハ事業年度每ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

營業利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得稅ヲ徵收ス

第二十七條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該營業ノ實際利得額ハ其ノ年ニ於ケル收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ基キ之ヲ計算ス

第二十五條　納稅義務者第二十二條ノ決定又ハ第二十四條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　法人ノ利得ニ付テハ事業年度每ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得稅ヲ徵收ス

第二十七條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付臨時利得稅ヲ逋脫シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十條　所得稅法第三十六條第四項、第三十九條第二項、第七十五條、第七十六條、第八十一條、第八十二條及第八十四條乃至第八十六條竝ニ法人稅法第二十八條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第三十一條　朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ヲ課セズ

第八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第三十二條　大正十三年法律第六號ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除セラルル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セズ

附　則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六　臨時利得稅

附　則

第一條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

第三條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅及資本利子稅ニシテ法人稅法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得稅ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅竝ニ清算所得ニ對スル第一種所得稅及第一種所得稅附加稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第三十條　所得稅法第五十七條、第五十八條、第七十條及第七十二條乃至第七十三條ノ二ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第三十一條　大正九年法律第十二號第二條及第三條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ但シ朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ甲種利得ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條　大正十三年法律第六號ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラルル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セズ

附　則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六　臨時利得稅

第四條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税及資本利子税ニシテ法人税法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得税ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第五條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得税ハ第五條第二項ノ改正規定ニ拘ラズ法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第六條　昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ臨時利得税ヲ輕減若ハ免除シ又ハ營業利得金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條　第十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ四月十五日トス

營業税法案

改正法

營業税法

第一條　本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業税ヲ課ス

第二條　本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲グル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業税ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム）
二　金錢貸付業
三　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ貸付ヲ含ム）
四　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
五　運送業（運送取扱ヲ含ム）
六　倉庫業
七　請負業
八　印刷業
九　出版業
十　寫眞業
十一　席貸業
十二　旅人宿業

現行法

營業收益税法

第一條　本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益税ヲ課ス

第二條　本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益税ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
二　銀行業
三　無盡業
四　金錢貸付業
五　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
六　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
七　運送業（運送取扱ヲ含ム）
八　倉庫業
九　請負業
十　印刷業
十一　出版業
十二　寫眞業

十三　料理店業
十四　周旋業
十五　代理業
十六　仲立業
十七　問屋業
十八　鑛業
十九　砂鑛業
二十　湯屋業
二十一　理髮美容業
二十二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル營業

第三條　營業稅ハ左ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

一　法人
各事業年度ノ純益
清算純益

二　個人
前條ニ掲グル營業ノ純益

第四條　法人ノ各事業年度ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人稅及臨時利得稅竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル分類所得稅ニシテ法人稅法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ純益ノ計算上之ヲ

十三　席貸業
十四　旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）
十五　料理店業
十六　周旋業
十七　代理業
十八　仲立業
十九　問屋業

第三條　營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條　法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

損金ニ算入セズ

法人ノ各事業年度開始ノ日前一年以內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第五條　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第六條　所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ營業稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス信託會社ノ各事業年度ノ純益ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第七條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額ガ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算純益トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算純益ト看做ス

法人ノ清算期間中ニ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル純益ニシテ本法其ノ他ノ法律ニ依リ營業稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ清算純益金額ヨリ之ヲ控除

ス

第一項又ハ第二項ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ

法人ノ各事業年度ノ純益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人税及臨時利得税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第八條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業税ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條　法人ノ各事業年度分ノ臨時利得税額ハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

營業税ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スル法人ノ純益金額ヨリ控除スベキ臨時利得税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十條　個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得税及臨時利得税ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

營業利得ニ對スル臨時利得税額ハ當該臨時利得税ヲ課セラルベキ年分ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

前條第二項ノ規定ハ營業税ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スル個人ノ純益金額ヨリ前項ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得税額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

第五條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益税ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條　個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

資本利子税ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

第十一條　左ニ掲グル營業ノ純益ニハ營業税ヲ課セズ

一　政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二　度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣

三　新聞紙法ニ依ル新聞紙（一月三回以下發行スルモノヲ除ク）ノ出版

四　本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

五　個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第十二條　命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ業トスル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生ズル純益ニ付營業税ヲ免除ス

第十三條　個人ノ純益金額四百圓ニ滿タザルトキハ營業税ヲ課セズ

第十四條　營業税ノ税率ハ百分ノ一・五トス

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業税額ヨリ之ヲ控除ス

個人ガ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業税額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スベキ地租ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セズ

第二項及第四項ノ規定ハ法人ノ清算純益ニ對スル營業税ニ付之ヲ準用ス

第七條　左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益税ヲ課セス

一　政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二　度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣

三　自己ノ採掘シ又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

四　新聞紙法ニ依ル出版

五　本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

六　法人ノ漁業

七　個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條　勅令ヲ以テ指定スル重要産物ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益税ヲ免除ス

第九條　個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益税ヲ課セス

第十條　營業收益税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人		百分ノ三・四
個人	純益金額千圓以下ナルトキ	百分ノ二・二
	純益金額千圓ヲ超ユルトキ　千圓以下ノ金額	百分ノ二・二
	純益金額千圓ヲ超ユルトキ　千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二・六

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子税額ハ命令ノ定ム

第十五條　納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十六條　納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條　法人ノ純益金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ純益金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

ル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

臨時租稅增徵法

第八條　法人ノ營業收益稅ニ付テハ營業收益稅法第十條ニ規定スル稅率百分ノ三・四ヲ百分ノ四トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徵ス

第十一條　納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條　納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條　法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

納稅義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルニ至ルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

第十八條　稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十九條　所得稅法第三十七條、第三十八條及第六十三條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十條　第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザル納稅義務者營業ヲ讓渡又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サザルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第二十一條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十二條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十四條　稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條　第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條　納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十八條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　所得稅法第七十五條及第七十六條ノ規定ハ營業稅付ニ之ヲ準用ス

第二十四條　納稅義務者第二十二條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十五條　法人ノ營業稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス但シ清算純益ニ對スル營業稅ハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

個人ノ營業稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ直ニ其ノ營業稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二十六條　法人解散シタル場合ニ於テ各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅又ハ清算純益ニ對スル營業稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第二十七條　個人ノ營業稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ所得稅法ノ甲種ノ事業所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業稅ノ納稅地トス

第二十八條　納稅義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ純益ノ申告、納稅其ノ他營業稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サントスルトキ亦同ジ

第二十九條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第三十條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ納稅義務者若ハ納稅義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格、支拂期日等ニ付キ質問スルコトヲ得

第三十一條　政府ハ營業者ノ組織スル團體ニ對シ營業稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スベシ

第三十二條　法人稅法第二十八條及所得稅法第八十六條ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ營業稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業稅ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十四條　第二十九條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　法人ノ營業收益稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第二十四條　個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條　收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條　政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スヘシ

第二十七條　所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十八條　第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢査ヲ妨ケ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　純益ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　第三十三條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附　則

第三十七條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル營業税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算純益ニ對スル營業税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、個人ノ營業税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ個人ノ鑛業ノ純益ニ付テハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

第三十九條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度直前事業年度分ノ第一種所得税、第一種所得税附加税、法人資本税及命令ヲ以テ指定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税ハ之ヲ法人税ト看做シ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税及資本利子税ニシテ法人税法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得税ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得税、第一種所得税附加税、法人資本税及命令ヲ以テ指定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税竝ニ清算所得ニ對スル第一種所得税及第一種所得税附加税ハ之ヲ法人税ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第四十條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得税ハ第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ法人ノ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第四十一條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税及資本利子税ニシテ法人税法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得税ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第四十二條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル鑛産税額、特別鑛産税額又ハ取引所營業税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ當該事業年度ノ營業税額ヨリ控除ス

第四十三條　昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル個人ノ營業ノ純益ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ營業税ヲ輕減若ハ免除シ又ハ純益金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第四十四條　昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產税額又ハ特別鑛產税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該鑛業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業税額ヨリ之ヲ控除ス

第三十條　營業收益税ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ四月三十日トス

第四十六條　貯蓄銀行法第二十二條ヲ削除ス

地租法

改正法

第二條　左ニ掲グル土地ニハ地租ヲ課セズ但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

二　府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザルモノヲ除ク

三　府縣社地、鄉村社地、護國神社地

四　墳墓地

五　公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六　用惡水路、溜池、堤塘、井溝

七　保安林

第十條　地租ノ稅率ハ百分ノ二トス

第十一條　地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

現行法

第二條　左ニ掲グル土地ニハ地租ヲ課セズ但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

二　府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザルモノヲ除ク

三　府縣社地、鄉村社地、招魂社地

四　墳墓地

五　公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六　用惡水路、溜池、堤塘、井溝

七　保安林

第十條　地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス

第十一條　地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一　宅地租

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

一　田租

第一期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年三月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

二　其ノ他

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十九條　國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徴收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲リタル開拓地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ税務署長ハ開拓減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條　國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地

二　田租

第一期　翌年一月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ末日限　年額ノ四分ノ一

第三期　翌年三月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

第四期　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額ノ四分ノ一

三　其ノ他

第一期　其ノ年九月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

第二期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十九條　國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徴收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十條　國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地

ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲リタル埋立地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ税務署長ハ埋立免租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第七十三條　地租ハ各納税義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル田ノ賃貸價格ノ合計金額ト田以外ノ土地ノ賃貸價格ノ合計金額トニ依リ算出シ之ヲ徴收ス但シ合計金額ガ五圓ニ滿タザルモノニ付テハ地租ヲ徴收セズ

第八十二條　本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

土地賃貸價格改訂法第四條ノ規定中從前ノ賃貸價格ニ依ル地租額ノ四倍トアルハ昭和十五年分地租ニ付テハ從前ノ賃貸價格ノ百分ノ二ニ相當スル金額ノ

ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第七十三條　地租ハ各納税義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徴收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ一圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徴收セズ

田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十二條　本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

(參考)

土地賃貸價格改訂法

第四條　改訂賃貸價格ニ依ル各土地ノ地租額ガ從前ノ賃貸價格ニ依ル地租額

四倍トス

ノ四倍ヲ超ユルトキハ其ノ四倍ヲ超ユル金額ニ相當スル地租ハ昭和十五年分迄之ヲ免除ス

酒税法

改正法

（本法ニ付テハ改廢ノ箇所ノ傍線ヲ省略シタリ）

第一章　總則

第一條　酒類ニハ本法ニ依リ酒税ヲ課ス

現行法

「現行法」ノ條文ニ冠記シタル法令名ノ略稱左ノ如シ

略稱	法令名
酒造	酒造税法
酒造規	酒造税法施行規則
酒含	酒精及酒精含有飲料税法
酒含規	酒精及酒精含有飲料税法施行規則
麥酒	麥酒税法
麥酒規	麥酒税法施行規則
臨增	臨時租税增徵法
支那	支那事變特別税法
酒母	酒母、醪及麴取締法
酒母規	酒母、醪及麴取締法施行規則
輸出	明治三十四年法律第十號（酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律）
小笠原	明治四十一年法律第二十四號（沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造税ニ關スル法律）
猶豫	明治四十三年法律第六號（酒精造石税徵收猶豫及免除ニ關スル法律）

（酒造）第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス（左ノ割合略）

（酒含）第一條　酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石税ヲ課ス

第二條　本法ニ於テ酒類トハアルコール分一度以上ノ飲料ヲ謂フ但シアルコール專賣法ノ適用ヲ受クルアルコールヲ除ク

本法ニ於テアルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ

第三條　酒類ヲ分チテ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、果實酒及雜酒トス

第四條　本法ニ於テ清酒トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二　米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ米（麴米ヲ含ム）ノ重量ヲ超エザルモノヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

清酒ヲ清酒粕ニテ粕漉シタルモノハ之ヲ清酒ト看做ス

第五條　本法ニ於テ合成清酒トハ左ニ揭グル酒類ニシテ其ノ香味、色澤其ノ他ノ性狀ガ清酒ニ類似スルモノヲ謂フ

一　清酒ト燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ製造シタルモノ

二　清酒、燒酎又ハアルコールト他ノ物品トヲ混和シテ製造シタルモノ

第六條　本法ニ於テ濁酒トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過セザルモノ

二　米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過セザルモノ

第七條　本法ニ於テ白酒トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ碾碎シタルモノ

（麥酒）第一條　麥酒（ビール）ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

（支那）第三十八條　物品稅ハ左ニ揭グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種　（省略）

第二種　（省略）

第三種

一　（省略）

二　酒類但シ濁酒ヲ除ク

三　（省略）

（酒含）第四條　清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒（ビール）、清涼飲料及アルコール專賣法ノ適用ヲ受クル酒精ニハ本法ヲ適用セス

（酒造）第四條　（第一項省略）

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

（酒含）第三條　本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

（酒造）第一條ノ一　此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

（酒造）第一條ノ二　此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クルモノハ清酒ト看做ス

一　前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二　清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三　清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

（酒造）第一條ノ三　此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

（酒造）第一條ノ四　此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ

二　前號ニ揭グル原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノ

第八條　本法ニ於テ味淋トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　米及米麴ト燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ濾過シタルモノ

二　前號ニ揭グル原料ノ外味淋、味淋粕又ハ水ヲ混和シテ濾過シタルモノ

味淋ヲ味淋粕ニテ粕漉シタルモノハ之ヲ味淋ト看做ス

第九條　本法ニ於テ燒酎トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　清酒粕、合成清酒粕、味淋粕、清酒、合成清酒、濁酒、白酒又ハ味淋ヲ蒸餾シタルモノ

二　命令ヲ以テ定ムル物品及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾シタルモノ

燒酎ヲ蒸餾シタルモノハ之ヲ燒酎ト看做ス

第十條　本法ニ於テ麥酒トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　麥芽、ホップ及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

二　麥芽、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ麥芽ノ重量ノ十分ノ五ヲ超エザルモノヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

第十一條　本法ニ於テ果實酒トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　果實ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

二　果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

三　果實又ハ果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘタルモノニ水又ハ命令ヲ以テ定ムル除酸劑ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第十二條　本法ニ於テ雜酒トハ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒及果實酒以外ノ酒類ヲ謂フ

第十三條　本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

第二章　製造及販賣ノ免許

第十四條　酒類ヲ製造セントスル者ハ製造スベキ酒類ノ各種類ニ付製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ

（酒造）前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五　此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クルモノハ味淋ト看做ス

一　前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二　味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

（酒造）第一條ノ六　此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ

左ニ揭クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

一　清酒

二　濁酒

三　味淋粕

四　米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷若ハ味淋粕ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

（麥酒）第一條（第一項省略）

本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホツプ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス

（酒含）第三條ノ二　本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

左ニ揭クルモノハ葡萄酒ト看做ス

一　葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　葡萄ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ

三　葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ酒精ヲ混和シタルモノ

（酒含）第三條ノ三　本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

葡萄ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス

（支那）第六十三條　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

（酒造）第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第十五條　毎酒造年度ニ於テ清酒及合成清酒ハ各三百石、濁酒ハ百石、白酒、味淋及燒酎ハ各五十石、麥酒ハ一萬石、雜酒ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非ザレバ製造ノ免許ヲ與ヘズ但シ清酒ノ製造免許ヲ受ケタル者ニハ濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ニ對スル制限ヲ、燒酎ノ製造免許ヲ受ケタル者ニハ白酒又ハ味淋ニ對スル制限ヲ適用セズ

毎酒造年度ニ於テ清酒及合成清酒ヲ合計シテ三百石以上製造スル者ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

試驗ノ爲ニ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

酒造年度トハ其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ノ期間ヲ謂フ

（酒含）第五條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（麥酒）第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（酒造）第五條　政府ハ一酒造年度間清酒ハ三百石濁酒ハ百石燒酎ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對シテハ其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看做シ濁酒ニ在リテハ一石ニ付三十六圓、清酒又ハ燒酎ニ在リテハ一石ニ付四十圓ノ割合ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス

（酒含）第五條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飲料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スル

第十六條　酒母、醪又ハ麴ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ但シ酒類製造ノ免許又ハアルコール專賣法ニ依ルアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託ヲ受ケ酒類又ハアルコールノ製造場ニ於テ製造スル者及自己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル麴ヲ製造スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　酒類ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム以下同ジ）ヲ爲サントスル者ハ政府ノ免許ヲ受クベシ但シ酒類製造者ガ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一個所毎ニ之ヲ受クベシ

事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セサリシ石數ニ對スル造石稅ハ一石金四十二圓ノ割合ニ依ル

（麥酒）第三條ノ二　政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度間ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘス

麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシトキハ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒稅ヲ課ス

（酒造）第三條　其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

（酒母）第一條　本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許又ハアルコール專賣法ニ依リアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

（酒母）第二條　酒母、醪又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

（酒造）第二條ノ二　酒類ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒類製造者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

第十八條　第十四條、第十六條及前條ノ規定ニ依ル免許ノ申請アリタル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ其ノ免許ヲ與ヘザルコトヲ得

一　取締上不適當ト認ムル場所ニ製造場又ハ販賣場ヲ設ケントスルトキ

二　本法ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケタル者ガ免許ヲ申請シタルトキ

三　第二十二條第一項第四號ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ガ免許ヲ申請シタルトキ

四　資力不充分ト認メラルル者ガ酒類ノ製造ノ免許ヲ申請シタルトキ

五　酒稅保全ノ爲ニスル製造又ハ販賣ノ統制上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムルトキ

六　前各號ノ外取締上不適當ト認ムル者ガ免許ヲ申請シタルトキ

酒類販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（酒　含）第五條ノ三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（麥　酒）第二條ノ二　麥酒ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ麥酒ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

麥酒販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（酒造規）第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

（酒造規）第四十三條ノ六　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第六條ノ三、第四十二條ノ二及第四十三條ハ酒類ノ販賣業ノ免許、酒類販賣場又ハ酒類販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒含規）第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒精及酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

（酒含規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業ノ免許、酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣場又ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

第十九條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場又ハ販賣場ヲ移轉セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

（麥酒規）第一條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　酒母、醪及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

（酒造規）第六條ノ二　酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

（麥酒規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ麥酒ノ販賣業ノ免許、麥酒販賣場又ハ麥酒販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒母規）第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二十條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ申請スベシ

酒母、醪若ハ麴ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スベシ

（酒造規）第四十三條ノ六　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第六條ノ三、第四十二條ノ二及第四十三條ハ酒類ノ販賣業ノ免許、酒類販賣場又ハ酒類販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒含規）第六條ノ二　酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

（酒含規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業ノ免許、酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣場又ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（麥酒規）第六條ノ二　麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

（麥酒規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ麥酒ノ販賣業ノ免許、麥酒販賣場又ハ麥酒販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒母規）第八條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

（酒　造）第二條　酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（酒　含）第五條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ

免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（麥酒）第二條　麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（酒母）第十七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

（酒造）第二條ノ二　酒類ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒類製造者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

酒類販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（酒含）第五條ノ三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（麥酒）第二條ノ二　麥酒ノ販賣業（販賣ノ仲介業ヲ含ム）ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ但シ麥酒ヲ製造スル者カ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

麥酒販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

（酒造規）第六條　酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許取消ヲ求ムヘシ

（酒造規）第四十三條ノ六　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第六條ノ三、第四十二條ノ二及第四十三條ハ酒類ノ販賣業ノ免許、酒類販賣場又ハ酒類販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒含規）第六條　酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許

第二十一條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造業又ハ酒類販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ製造又ハ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（酒含規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業ノ免許、酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣場又ハ酒精若ハ酒精含有飲料ノ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（麥酒規）第六條　麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

（麥酒規）第十七條ノ二　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第七條及第十六條ハ麥酒ノ販賣業ノ免許、麥酒販賣場又ハ麥酒販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒母規）第七條　酒母、醪又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒母、醪又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醪又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十二條　酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一　本法ニ違反シ處罰又ハ處分セラレタルトキ

二　三年以上引續キ酒類ノ製造ヲ爲サザルトキ

三　三酒造年度以上引續キ其ノ製造石數ガ第十五條第一項又ハ第二項ノ制限石數ニ達セザリシトキ

四　第四十三條ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ提供ヲ爲サザルトキ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ仍本法ヲ適用ス

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添附スヘシ

（酒造）第三十三條　第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

（酒含）第二十三條ノ二　第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

（麥酒）第十九條ノ二　第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ麥酒ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條　酒類製造者ニハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ酒稅ヲ完納スルニ至ル迄ノ間仍本法ヲ適用ス

（酒造）第三十四條　酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

（酒含）第二十四條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

（麥酒）第二十條　麥酒製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

（酒母）第十八條　第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

（酒造）第三十三條ノ二　第二十九條又ハ第三十條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ酒類ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ酒類販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ハ前項ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

（酒含）第二十三條ノ三　第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ酒精若ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

（麥酒）第十九條ノ三　第十五條乃至第十七條ニ依リ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ二年以上引續キ麥酒ヲ販賣セサル者ニ對シテハ政府ハ麥酒販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前條第二項ハ前項ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

第三章　酒稅ノ賦課徵收

第一節　酒稅ノ種別及課率

第二十六條　酒稅ハ之ヲ酒類造石稅及酒類庫出稅ノ二種トス

第二十七條　各酒類ニ課スベキ酒稅及其ノ稅率左ノ如シ

一　清酒及白酒　造石稅　一石ニ付　四十五圓
　　アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ
　　アルコール分二十度ヲ超ユル一度毎
　　ニ三圓八十錢ヲ加フ
　　庫出稅　一石ニ付　二十五圓

二　合成清酒　造石稅　一石ニ付　四十八圓
　　アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ
　　アルコール分二十度ヲ超ユル一度毎
　　ニ四圓ヲ加フ
　　庫出稅　一石ニ付　二十五圓

三　濁酒　造石稅　一石ニ付　四十五圓

四　味淋　造石稅　一石ニ付　四十五圓

（酒造）第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒　一石ニ付三十六圓

第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎　一石ニ付四十圓

第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎　一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額

第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎　一石ニ付酒精分一度毎ニ

アルコール分二十八度ヲ超ユルトキハアルコール分二十八度ヲ超ユル一度毎ニ二圓七十錢ヲ加フ

庫出税　一石ニ付　二十五圓

五　燒酎

第一種　アルコール分四十五度ヲ超エザルモノ

甲　連續式蒸餾機ニ依リ製造シタルモノ

造石税　一石ニ付　四十八圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓七十錢ヲ加フ

庫出税　一石ニ付　二十五圓

乙　其ノ他ノモノ

造石税　一石ニ付　四十五圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓六十錢ヲ加フ

庫出税　一石ニ付　二十五圓

第二種　アルコール分四十五度ヲ超ユルモノ

造石税　一石ニ付　百五十五圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度毎ニ四圓ヲ加ヘタル金額

庫出税　一石ニ付　二十五圓

六　麥酒　庫出税　一石ニ付　五十九圓三十錢

七　果實酒　庫出税　一石ニ付　二十五圓

八　雜酒　造石税　一石ニ付　五十圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコール分二十度ヲ超ユル一度毎ニ四圓ヲ加フ

庫出税　一石ニ付　三十圓

一圓八十錢

（臨增）第十四條　酒税中清酒、白酒、味淋及燒酎ノ造石税ハ酒造税法第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

一　酒精分二十三度以下ノ清酒及白酒竝ニ酒精分三十度以下ノ味淋及燒酎　一石ニ付　四十五圓但シ連續式蒸餾機ニ依リ製造シタル燒酎ニ付テハ一石ニ付二圓ヲ加ヘタル金額

二　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎　一石ニ付　四十五圓ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓七十錢ヲ加ヘタル金額但シ連續式蒸餾機ニ依リ製造シタルモノニ付テハ四十七圓ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓八十錢ヲ加ヘタル金額

三　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒及白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋竝ニ酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎　一石ニ付　酒精分一度毎ニ二圓十五錢

（酒含）第二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石税ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

ル金額

（臨增）第十六條　酒税中酒精及酒精ヲ含有スル飲料ノ造石税ニ付テハ酒精及酒精含有飲料税法第二條ニ規定スル税率中一圓八十錢ヲ二圓十五錢、四十二圓ヲ五十圓トシタル場合ノ差增額ニ相當スル税額ヲ增徵ス

（麥酒）第三條　麥酒税ハ麥酒一石ニ付二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

（臨增）第十五條　酒税中麥酒税ニ付テハ麥酒税法第三條ニ規定スル税率一石ニ付二十五圓ヲ三十五圓トシタル場合ノ差增額ニ相當スル税額ヲ增徵ス

（支那）第三十九條　物品税ノ税率左ノ如シ

第一種　（省略）

第二種　（省略）

第三種

一　（省略）

二　酒類

イ　清酒、白酒、味淋、燒酎及麥酒　一石ニ付　十圓

ロ　葡萄酒（酒精及酒精含有飲料税法第三條ノ二ニ規定スルモノ以下同ジ）及果實酒（酒精及酒精含有飲料税法第三條ノ三ニ規定スルモノ以下同ジ）　一石ニ付　十五圓

ハ　其ノ他ノ酒類ニシテ酒精及酒精含有飲料税法ノ適用ヲ受クルモノ　一石ニ付　十四圓

三　（省略）

第二節　酒類造石税

第二十八條　酒類造石税ハ酒類ノ製造石數ニ應ジ其ノ製造者ヨリ之ヲ徴收ス

但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ニ付テハ製造石數ノ百分ノ七以内、味淋ニ付テハ製造石數ノ百分ノ三以内、燒酎ニ付テハ製造石數ノ百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ製造石數ヨリ控除スルコトヲ得

第四條第二項又ハ第八條第二項ノ酒類ニ付テハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミヲ以テ前項ノ製造石數ト看做ス但シ粕漉前ノ酒類ノ石數ヲ確知スルコト能ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　酒類（麥酒及果實酒ヲ除ク）ノ製造石數及アルコール分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成ノ時之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事由ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數又ハアルコール分ヲ査定ス

（酒造）第四條　酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石税ヲ課ス（左ノ割合省略）

（酒含）第一條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石税ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス

（麥酒）第三條　麥酒税ハ麥酒一石ニ付二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徴收ス

（酒造）第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七以内、味淋ハ査定石數ノ百分ノ三以内、燒酎ハ査定石數ノ百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

（酒造）第九條　粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ增加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

（酒造規）第十四條　酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

（酒造）第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ査定石數ノ百分ノ七以内、味淋ハ査定石數ノ百分ノ三以内、燒酎ハ査定石數ノ百分ノ二以内ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ控除スルコトヲ得

麥酒及果實酒ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成ノ時其ノ製造石數ヲ檢定ス

第三十條　酒類造石税ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徴收ス

一　清酒

第一期　七月一日ヨリ三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額ノ四分ノ一

第二期　十月一日ヨリ三十一日限

同上

第三期　翌年二月一日ヨリ末日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

（酒含）第九條　製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石税ヲ課ス

（麥酒）第六條　麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒税ヲ課ス

（酒造）第六條　造石税ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期　七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額四分ノ一

第二期　十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期　翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル税額二分ノ一

ル税額ノ二分ノ一

第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

前納額ノ殘額

二　濁酒、白酒、味淋及燒酎

第一期　七月一日ヨリ三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額ノ二分ノ一

第二期　十月一日ヨリ三十一日限

同上

第三期　翌年二月一日ヨリ末日限

其ノ年五月一日ヨリ九月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額

三　合成清酒及雜酒

毎月中査定シタル製造石數ニ對スル税額ヲ翌月末日限

第三十一條　第二十二條第一項ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テハ未納ニ屬スル酒類造石税ノ全部又ハ一部ヲ直ニ徴收スルコトヲ得第四十三條ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ提供ヲ爲サザルトキ亦同ジ

（酒含）第六條　造石税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス

前條第二項ニ依ル造石税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス

（麥酒）第四條　麥酒税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス

前條第二項ニ依ル麥酒税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス

（猶豫）第一條　酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石税ハ其ノ税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以内其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

（酒造）第七條　第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納税保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サザルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

（酒含）第六條　造石税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス

前條第二項ニ依ル造石税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス

第四期　翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第三十二條　酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　亡失シタルトキ

二　腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ飲用ニ供シ難キ場合ニ於テ政府ノ承認ヲ受ケ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シ又ハ酒類製造ノ原料ニ供シタルトキ

第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ製造場ヨリ移出シタル酒類ガ移出先ニ到達前又ハ移出先ニ於テ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石税額ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付スル場合ニ於テ當該酒類ニ付納付スベキ酒類造石税中未納ニ屬スルモノアルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ税額ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得

第三節　酒類庫出税

第三十三條　酒類庫出税ハ製造場ヨリ移出シタル酒類ノ石數ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徴收ス但シ保税地域ヨリ引取ル酒類ニ付テハ引取リタル石數ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徴收ス

（麥酒）第四條　麥酒税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス

前條第二項ニ依ル麥酒税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス

（酒造）第十二條　左ノ酒類ハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二　腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三　腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ

四　容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

（酒含）第十一條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

（麥酒）第七條　災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

（支那）第四十一條　物品税ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨ

第三十四條　酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一　製造場ニ於テ飲用セラレタルトキ

二　酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ製造場ニ現存スルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク

三　製造場ニ現存スルモノ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

第三十五條　酒類（濁酒ヲ除ク）ノ製造者ハ毎月製造場ヨリ移出シタル酒類ノ種類毎ニ石數ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ移出シ又ハ移出シタルモノト看做サレタル酒類ニ付申告書ヲ提出スベシ

一　酒類製造ノ免許ヲ取消サレタルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク

二　酒類ガ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

酒類（濁酒ヲ除ク）ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ引取ノ際前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ移出又ハ引取ノ石數ヲ決定ス

（支那）リ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

（支那）第四十四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ嗜好飲料、酒類、飴、葡萄糖又ハ麥芽糖ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一　嗜好飲料又ハ酒類ヲ製造場內ニ於テ飲用シタルトキ

二　飴、葡萄糖又ハ麥芽糖ヲ製造場內ニ於テ飴、葡萄糖又ハ麥芽糖以外ノ製品ノ原料トシテ使用シタルトキ

（支那）第四十五條　第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第三十六條　酒類庫出稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十三條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

前條第一項但書ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ其ノ酒類庫出稅ヲ徵收ス

前項ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ酒類庫出稅ニ付其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月以內其ノ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十七條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル酒類ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ酒類ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ酒類庫出稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出稅ヲ免除スルコトヲ得

政府ハ第一項ノ酒類ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出稅額ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得

（支那）第四十六條　酒類庫出稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十三條

（支那）第四十七條　物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第四十一條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月內物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

（支那）第四十八條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

（支那）第四十九條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

第三十八條　製造場ヨリ移出シタル酒類ヲ同一製造場ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ酒類庫出稅ノ徵收ヲ爲サズ但シ前條第一項ニ規定スル政府ノ承認ヲ受ケテ移出先又ハ引取先ニ移入シタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四節　原料用及輸出向酒類

第三十九條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ同一製造場ニ於テ酒類製造ノ原料ニ供スル爲製造シタル酒類ニ付テハ其ノ酒類造石稅ヲ免除ス

前項ノ原料用酒類ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ製造場ヨリ移出シタル酒類ヲ移出先ニ於テ酒類製造ノ原料ニ供シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三十二條第三項ノ規定ハ前項ノ交付金ヲ交付スル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十條　前條第一項ノ原料用酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類造石稅ヲ徵收ス

一　前條第二項ノ規定ニ依リ其ノ用途ヲ變更シタルトキ

二　酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ製造場ニ現存スルトキ

三　公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破產手續ニ於テ換價セラレタルトキ

第四十一條　政府ノ承認ヲ受ケ酒類ヲ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石稅ヲ免除シ又ハ其ノ稅額ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第三十二條第三項ノ規定ハ前項ノ交付金ヲ交付スル場合ニ付之ヲ準用ス

（支那）第四十六條　小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ稅額ヨリ其ノ物品ニ課セラレタル物品稅ニ相當スル金額ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シタル場合亦同ジ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場內ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ但シ第四十八條第一項ニ規定スル政府ノ承認ヲ受ケテ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品

二　酒類製造ノ用ニ供スル葡萄酒及果實酒

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間內ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

（酒造）第八條ノ二　同一製造場內ニ於テ酒類ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

（酒含）第八條　同一製造場內ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

（酒造）第十條　酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ查定ス

一　他人ニ讓渡ストキ

二　公賣セラルルトキ

三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ查定石數トシ造石稅ヲ課ス

（酒含）第十條　第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ查定石數トシ造石稅ヲ課ス

一　他人ニ讓渡サレタルトキ

二　公賣セラレタルトキ

三　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

（輸出）第一條　命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅若ハ出港稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅若ハ出港稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第四十二條　政府ノ承認ヲ受ケ輸出スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出税ヲ免除スルコトヲ得

第三十七條第三項ノ規定ハ前項ノ酒類ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第一項ノ酒類ハ之ヲ内地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ此等ノ地域ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ承認ヲ受ケタル酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類庫出税ヲ徴收ス

第三十七條第四項ノ規定ハ第一項ノ酒類庫出税ニ付之ヲ準用ス

第五節　納税擔保

第四十三條　政府ハ酒類製造者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類造石税ニ付擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得但シ酒類製造者政府ノ承認ヲ受ケ納税ノ擔保トシテ酒類造石税額ニ相當スル價額ノ酒類ヲ保存スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

（輸出）第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス

一　納税濟證明書

二　輸出免狀

三　外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

（輸出）第三條　納税濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納税濟證明書ニ代フルコトヲ得

（支那）第五十條　左ニ掲グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品税ヲ免除ス

一　輸出スルモノ

二　學術研究用ニ供スルモノ

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十八條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

（酒造）第十三條　酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上增加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ增補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコトヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ增減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（酒造）第十四條　左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一　相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

二　納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

三　造石税ヲ前納シタルトキ

四　酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ

第四十四條　酒類製造者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ保證シタルトキハ其ノ各組合員モ亦連帶シテ保證ノ義務ヲ負フ

第四十五條　本法ニ依リ擔保ヲ提供シ又ハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ保存シタル場合ニ於テ納稅義務者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ其ノ擔保物タル金錢ヲ直ニ稅金ニ充テ、金錢以外ノ擔保物若ハ納稅ノ擔保トシテ保存スル酒類ヲ公賣ニ付シテ稅金及公賣ノ費用ニ充テ又ハ保證人若ハ納稅ヲ保證シタル酒造組合ノ組合員ヲシテ稅金ヲ納付セシム

第四十六條　前條ノ場合ニ於テ擔保物又ハ納稅ノ擔保トシテ保存スル酒類ノ價額ガ徵收スベキ稅金及公賣ノ費用ニ充テ仍不足アリト認ムルトキハ納稅義務者ノ他ノ財產ニ就キ滯納處分ヲ行フ

納稅義務者ニ對シ滯納處分ヲ執行シタル場合ニ於テ其ノ財產ノ價額ガ徵收スベキ稅金、督促手數料、延滯金及滯納處分費ニ充テ仍不足アリト認ムルトキハ保證人又ハ納稅ヲ保證シタル酒造組合ノ組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フ

前項ノ保證人又ハ酒造組合ノ組合員ハ國稅徵收法第三十二條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ滯納者ト看做ス

第四十七條　第三十一條又ハ國稅徵收法第四條ノ一ノ規定ニ依リ酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

（酒　造）第十六條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

（酒　造）第十五條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ稅金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

（猶　豫）第一條　酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ稅金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之レヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（酒造規）第三十一條　酒類製造者稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ組合員ハ國稅徵收法第三十二條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ滯納者ト看做ス

（酒　造）第十五條　酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシムヘシ

（酒造規）第三十一條　酒類製造主稅金ヲ納メサルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ納メシムヘシ

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金ニ不足アルトキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

（酒　造）第七條　第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又ハ酒類ヲ製造スル者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲サザルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

（酒　含）第七條　第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ得

（麥　酒）第五條　第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及シテ稅金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ稅金額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四十八條　酒類製造者ハ第四十三條但書ノ規定ニ依リ納稅ノ擔保トシテ保存スル酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第四章　雜則

第四十九條　酒類製造者ハ製造石數ノ査定又ハ檢定前ニ於テ其ノ酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第五十條　製造石數査定後ニ於テ種類ノ異ル酒類又ハ水以外ノ物品ヲ混和シタルトキハ新ニ酒類ヲ製造シタルモノト看做ス但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ清酒ト合成清酒トヲ混和スルトキ

二　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ酒類保存ノ爲酒類ニ燒酎若ハアルコール又ハ水以外ノ物品ヲ混和スルトキ

（酒造）第十七條　酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

（酒造）第十八條　酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

（酒含）第十二條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

（麥酒）第八條　麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

（酒造）第一條ノ二　此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス

一　前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ麥酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

二　清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三　清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

（酒含）第三條ノ二　本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

左ニ掲クルモノハ葡萄酒ト看做ス

一　葡萄ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　葡萄ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ

三　葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ酒精ヲ混和シタルモノ

（酒母）第七條　醪ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

（酒母）第八條　酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得ス

酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ヘ移出スルコトヲ得ス

（酒造）第十條　酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁

第五十一條　酒母又ハ醪ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類製造者ガ酒類製造ノ用ニ供スル場合又ハ酒母ヲ政府ノ交付シタル酒母讓受許可書ヲ有スル者ニ讓渡ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ醪ハ之ヲ濁酒ト看做シ製造者ヨリ直ニ酒類造石稅ヲ徵收ス但シ政府ノ承認ヲ受ケ之ニ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條　政府ハ取締上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類、酒母、醪又ハ麴ノ製造者ニ對シ製造又ハ貯藏ノ設備又ハ方法ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五十三條　政府ハ酒稅保全上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ニ對シ製造數量又ハ販賣ノ數量、價格若ハ方法ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五十四條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類若ハ麴ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一　他人ニ讓渡ストキ

二　公賣セラルルトキ

三　飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

（酒造規）第三十二條　同一製造場內ニ於テ淸酒竝ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ

（酒含規）第八條　酒精及酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場內ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

（酒造規）第四十三條　酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、增減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアル時ハ此ノ限ニ在ラス

（酒造規）第四十三條ノ六　第一條ノ二、第二條、第四條、第六條乃至第六條ノ三、第四十二條ノ二及第四十三條ハ酒類ノ販賣業ノ免許、酒類販賣場又ハ酒類販賣業者ニ付之ヲ準用ス

（酒含）第十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

（麥酒）第九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

（酒母）第三條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者及麴ノ請賣者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醪又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

（支那）第五十二條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

（支那）第五十二條（第一項省略）

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

（酒造規）第三條　酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場每ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異

第五十五條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事項ヲ政府ニ申告スベシ

動ヲ生シタルトキ亦同シ

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ酒類販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

（酒合規）第三條　酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料ノ販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

（麥酒規）第三條　麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

稅務署長ハ必要アリト認メ麥酒販賣業ヲ爲ス者ニ對シ第一項ニ準シ圖面及目錄ヲ提出シ又ハ第二項ニ準シ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

（酒母規）第四條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醪又ハ麴製造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

（酒造規）第五條　酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

（酒合規）第五條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

（麥酒規）第五條　麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申

告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

（酒母規）第六條　酒母、醪又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數、製造著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ酒母、醪又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

（酒造規）第十三條　酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量、時期等ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

（酒造規）第十六條　酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪又ハ酒造稅法第八條ノ二ニ依リ檢定シタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

（酒造規）第十七條　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

（酒含規）第九條　酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

（麥酒規）第九條　麥酒釀造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

（酒造規）第四十條　酒類製造場外ヨリ酒類製造場內ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ

第五十六條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ使用スル機械、器具及容器ノ檢定ヲ受クベシ

移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

（酒造規）第四條　酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

（酒含規）第四條　酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

（麥酒規）第四條　麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

（酒母規）第五條　酒母、醪又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

第五十七條　酒類、酒母、醪若ハ麹ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事項ニ付政府ノ檢査又ハ承認ヲ受クベシ

所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

（酒造規）第四十二條　酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

酒類製造主ハ前項檢査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

（酒造規）第五條　酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ毎酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

（酒造規）第三十六條　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

（酒造規）第三十八條　酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

（酒造規）第三十九條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込マムトスルトキ

二　熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ

三　酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

四　仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和セムトスルトキ

五　原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

六　藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ

七　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

（酒造規）第四十一條　二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

（酒含規）第十五條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二　濾過、蒸餾又ハ調合ニ著手セムトスルトキ

三　原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四　酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ

第五十八條　收稅官吏ハ酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類若ハ麴ノ販賣業者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ揭グル物件ニ付檢査ヲ爲シ若ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　製造者ノ所持スル酒類、酒母、醪若ハ麴又ハ販賣業者ノ所持スル酒類若ハ麴

二　酒類、酒母、醪又ハ麴ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　酒類、酒母、醪又ハ麴ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、容器、原料其ノ他ノ物件

收稅官吏ハ運搬中ノ酒類、酒母、醪又ハ麴ヲ檢査シ又ハ其ノ出所若ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

五　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六　製造場外ヨリ製造場內ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

（麥酒規）第十五條　左ニ揭クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ

二　醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

三　麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ

四　麥酒ノ殘滓等ヲ用ヰ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ

五　麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ

六　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、機械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

七　製造場外ヨリ製造場內ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ

八　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

（酒母規）第十七條　收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醪又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

（酒　造）第十九條　收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

（酒　含）第十四條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

（麥　酒）第十條　收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

（酒　母）第四條　收稅官吏ハ酒母、醪若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醪又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收稅官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

（酒　母）第五條　收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醪又ハ麴ヲ檢査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五十九條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合又ハ酒造組合中央會ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ爲シ若ハ徴收事務ノ補助ヲ爲シ又ハ酒税保全上必要ナル措置ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ酒造組合又ハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第五章　罰則

（支　那）第五十四條（第一項、第二項、第三項及第四項省略）

收税官吏ハ物品税ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付檢査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

（酒　造）第三十五條ノ三　政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

（支　那）第六十二條　政府ハ當分ノ内酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合中央會ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第六十條　免許ヲ受ケズシテ酒類ヲ製造シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ製造ニ係ル酒類竝ニ其ノ機械、器具及容器ハ之ヲ沒收ス

前項ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類造石税及酒類庫出税ヲ徴收ス

（酒　造）第二十二條　免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ラス其ノ造石税ヲ徴收ス

（酒　含）第十五條　免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（麥　酒）第十一條　免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（支　那）第五十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　第四十五條又ハ第五十二條ノ六ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品（酒類ヲ除ク）ヲ製造シタル者

四　政府ニ申告セズシテ第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

第六十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酒類造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者

二　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ントシタル者

三　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類造石稅ヲ徵收ス

前項第三號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ小賣シタル第一種ノ物品又ハ製造シタル第二種若ハ第三種ノ物品（酒類ヲ除ク）ニ對スル物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ製造免許ヲ受ケズシテ酒類ヲ製造シタル場合ニ付之ヲ準用ス

（酒造）第二十四條　酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（酒含）第十六條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（麥酒）第十二條　麥酒ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（酒造）第二十五條　酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（酒含）第十七條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酒類庫出稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類庫出稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者

二　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類庫出稅ノ免除ヲ得又ハ得ントシタル者

前項ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類庫出稅ヲ徵收ス

第六十三條　第六十一條ノ罰金ト前條ノ罰金トハ之ヲ併科ス

第六十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十六條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ酒母、醪又ハ麴ヲ製造シタル者

二　第十七條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ酒類ノ販賣業ヲ爲シタル者

三　第三十五條第一項又ハ第二項ニ規定スル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

四　第三十七條第一項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケテ移出シ又ハ引取リタル酒類ヲ指定ノ場所ニ移入セザル者

五　第三十九條第二項ノ承認ヲ受ケズシテ同條第一項ノ原料用酒類ヲ他ノ下ルコトヲ得ス

（麥酒）第十三條　麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

（支那）第五十六條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品稅又ハ遊興飲食稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

（酒母）第九條　免許ヲ受ケスシテ酒母、醪若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醪又ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス

前項ノ酒母、醪ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス

（酒造）第二十二條ノ二　第二條ノ二ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ酒類ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

用途ニ供シ又ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタル者

六　第四十二條第三項ノ承認ヲ受ケズシテ同條第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出税ヲ免除セラレタル酒類ヲ内地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ此等ノ地域ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡シタル者

七　第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ違反シ酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

八　第五十一條第一項ノ規定ニ違反シ酒母又ハ醪ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

九　第五十二條又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者

前項第一號ニ該當スル場合ニ於テハ製造ニ係ル酒母、醪又ハ麹竝ニ其ノ機械、器具及容器ハ之ヲ沒收ス

第一項第一號及第八號ノ酒母及醪ハ之ヲ濁酒ト看做シ製造者ヨリ直ニ酒類造石税ヲ徴收ス

第一項第四號及第六號ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類庫出税ヲ徴收ス此ノ場合ニ於テハ第三十七條第三項(第四十二條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第一項第五號及第七號ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類造石税及酒類庫出税ヲ徴收ス

(酒　含)　第十五條ノ二　第五條ノ三ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(麥　酒)　第十一條ノ二　第二條ノ二ニ違反シ免許ヲ受ケスシテ麥酒ノ販賣業ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(支　那)　第五十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二　第四十五條又ハ第五十二條ノ六ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品(酒類ヲ除ク)ヲ製造シタル者

四　政府ニ申告セズシテ第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

(酒　造)　第二十八條　酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(酒　含)　第十八條　第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(麥　酒)　第十四條　麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第五十四條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二　第五十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　第五十六條ノ規定ニ違反シ檢定ヲ受ケザル機械、器具又ハ容器ヲ使用シタル者

四　第五十七條ノ規定ニ依ル檢査又ハ承認ヲ受ケザル者

五　第五十八條ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

(酒　造)　第二十六條　納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

(酒　造)　第二十九條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(酒　含)　第十九條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(酒　含)　第二十條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(麥　酒)　第十五條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(麥　酒)　第十六條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(酒　母)　第十一條　酒母、醪若ハ麹ノ製造者又ハ麹ノ請賣者酒母、醪又ハ麹ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不

正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

（支　那）第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二十五條第一項、第三十二條第一項、第五十二條第一項又ハ第五十二條ノ十第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二　第二十五條第二項、第三十二條第二項、第五十二條第二項又ハ第五十二條ノ十第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三　第五十四條第一項、第二項、第三項、第五項又ハ第六項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

（酒　造）第二十七條　酒類製造用ト否トヲ問ハズ其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ檢査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

（酒　母）第十條　酒母、醪又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

（酒　造）第三十條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十六條　第六十條第一項、第六十一條第一項、第六十二條第一項又ハ第六十八條第二項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

（酒　含）第二十一條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

（麥　酒）第十七條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

（酒　母）第十二條　收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

（酒　造）第三十一條　此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、〔再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用キス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

（酒　含）第二十二條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、再犯加重、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用キス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

（麥　酒）第十八條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、〔再犯加重〕、〔數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス但シ刑法〔第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

（酒　母）第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル

第六十七條　酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類若ハ麴ノ販賣業者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣業者ヲ處罰ス

第六十八條　本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒類ハ其ノ地ニ於テ本法ト同等以上ノ稅ヲ課スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移入シタル者ハ其ノ移入酒類ニ付第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒類造石稅及酒類庫出稅ノ稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス

者ニハ刑法ノ減輕、(再犯加重、數罪俱發)ノ例ヲ用キス

(支那)　第五十九條　第五十五條及第五十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適要セズ

(酒造)　第三十二條　酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

(酒含)　第二十三條　酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

(麥酒)　第十九條　麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

(酒母)　第十四條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

(酒母)　第十五條　酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ズ

(支那)　第六十條　第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

(酒造)　第三十五條ノ二　此ノ稅法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ稅法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ稅法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

(酒含)　第二十四條ノ三　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六十九條　本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒母、醪又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒母、醪又ハ麴ヲ移入シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ酒母、醪又ハ麴及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス

附　則

第七十條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條　左ノ法律ハ之ヲ廢止ス

一　酒造稅法

一　酒精及酒精含有飲料稅法

一　麥酒稅法

一　酒母、醪及麴取締法

一　工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法

一　明治三十四年法律第十號

一　明治四十一年法律第二十四號

一　明治四十三年法律第六號

第七十二條　舊法ニ依リ酒類、酒精ヲ含有スル飲料、麥酒、酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依リ酒類、酒母、醪又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

舊法ニ依リ酒類、酒精ヲ含有スル飲料又ハ麥酒ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第七十三條　前條第一項ノ規定ニ依ル清酒ノ製造者ニハ第十五條第一項及第二項ノ規定ニ拘ラズ合成清酒製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第七十四條　第二十二條第一項第三號ノ規定ハ昭和十五年十月一日ヨリ開始スル酒造年度以後ノ酒造年度ニ付之ヲ適用ス

第七十二條第一項ノ規定ニ依ル酒類製造者ニ對スル第二十二條第一項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ制限石數ハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケ製造シタル合成清酒ノ石數ハ之ヲ清酒ノ製造石數ト看做ス

第七十五條　舊法ニ依リ賦課シ又ハ賦課スベカリシ造石稅、出港稅及麥酒稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

第三十二條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ本法施行前ニ査定ヲ受ケタル酒類又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ舊法及臨時租稅增徵法ニ依ル造石稅ハ之ヲ本法ノ酒類造石稅ト看做ス

第七十六條　舊法ニ依リ原料用トシテ檢定ヲ受ケタル酒類、酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ本法施行ノ際現存スルモノハ其ノ檢定ノ內容ヲ以テ本

（麥酒）第二十條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第三條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

（酒母）第十八條ノ二　本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒母、醪又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒母、醪又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

法施行ノ際査定セラレ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ其ノ酒類造石税ヲ免除セラレタルモノト看做ス

第七十七條　本法施行前ニ査定ヲ受ケタル麥酒ノ酒類庫出税ノ税率ハ第二十七條ノ規定ニ拘ラズ一石ニ付二十四圓三十錢トス

第七十八條　酒類ノ製造者又ハ販賣業者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ各種類ヲ通ジ合計十石以上ノ酒類（濁酒ヲ除ク）ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ本法施行ノ日ニ於テ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ所持スル酒類ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ酒類庫出税ヲ徴收ス此ノ場合ニ於テハ麥酒ニ付テハ一石ニ付十四圓三十錢ノ割合ニ依リ算出シタル金額、其ノ他ノ酒類ニ付テハ第二十七條ニ規定スル酒類庫出税ノ税率ニ依リ算出シタル金額ト支那事變特別税法第三十九條ニ規定スル物品税ノ税率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ税額トス

前項ノ製造者又ハ販賣業者ハ其ノ所持スル酒類ノ種類毎ニ石數及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

第七十九條　本法施行ノ際製造場ニ現存スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノニ付テハ第三十八條ノ規定ニ拘ラズ酒類庫出税ヲ徴收ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項後段ノ規定ヲ準用ス

第八十條　支那事變特別税法第四十八條第一項又ハ第四十九條第一項第二號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ移出シ又ハ引取リタル酒類ハ之ヲ第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ移出シ又ハ引取リタル酒類ト看做シ支那事變特別税

法第五十條第一項第一號ノ規定ニ依リ物品税ヲ免除セラレタル酒類ハ之ヲ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出税ヲ免除セラレタル酒類ト看做ス

第八十一條　酒造税法第十三條ノ規定ニ依リ提供シタル保證物及同法第十四條ノ規定ニ依リ爲シタル納税保證ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本法ニ依ル納税ノ擔保ト看做ス但シ舊法ニ依ル納税保證タルノ效力ヲ妨ゲズ

第八十二條　本法施行前舊法及支那事變特別税法中酒類ノ物品税ニ關スル規定ニ基キ爲シタル申告、申請、檢定、檢査、承認、認可、命令又ハ監督上ノ處分ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル申告、申請、檢定、檢査、承認、命令又ハ取締上ノ處分ト看做ス

第八十三條　東京府小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造スル清酒及燒酎ノ酒税ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

一　酒類造石税　第二十七條ニ規定スル金額ノ三分ノ一

二　酒類庫出税　一石ニ付二十圓

前項ノ酒類ハ之ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ移出スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移出シタル者ハ其ノ移出酒類ニ付第二十七條ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石税及酒類庫出税ノ合計税額ト第一項ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石税及酒類庫出税ノ合計税額トノ差額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ酒類及容器ハ之ヲ沒收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

（小笠原）第一條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テハ酒造税法第四條ニ依ル造石税ハ當分其ノ三分ノ一トス

（小笠原）第二條　東京府小笠原島伊豆七島ニ於テ製造シタル酒類ハ之ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ酒造税法第四條ノ税率ニ從テ算出シタル税額五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第一項ニ規定スル地方ニ於テ製造シタル清酒及燒酎ニ付第七十八條又ハ第七十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第八十四條　沖繩縣ニ於テ製造スル燒酎ノ酒類造石稅ハ當分ノ內左ノ稅率ニ依ル

第一種　アルコール分四十五度ヲ超エザルモノ　一石ニ付　三十三圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓十錢ヲ加フ

第二種　アルコール分四十五度ヲ超ユルモノ　一石ニ付　百一圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度毎ニ二圓八十錢ヲ加ヘタル金額

本法施行前又ハ施行後沖繩縣ニ於テ製造シタル燒酎ヲ內地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ移出スルトキハ其ノ燒酎ニ付第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒類造石稅ノ稅額ト前項ノ稅率ニ依リ算出シタル酒類造石稅ノ稅額トノ差額ニ相當スル出港稅ヲ課ス

樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

（酒造）

附則（大正十五年法律第十四號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

「註」沖繩縣現行稅率（從前ノ例ニ依ルモノ大正九年法律第十四號）

稅率

酒類造石稅

第一種　酒精分二十三度以下ノ濁酒　一石ニ付三十圓

第二種　酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋、燒酎　一石ニ付三十三圓

第三種　酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎　一石ニ付三十三圓ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓二十五錢ヲ加ヘタル金額

第四種　酒精分二十三度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎　一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓五十錢

（酒造）第三十六條　神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第八十五條　神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一酒造年度ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ當分ノ內酒稅ヲ課セズ

アルコール専賣法（酒税法附則）

改正法

第十七條　酒税法ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ガ酒類製造ノ原料トシテ其ノ同一製造場内ニ於テ製造スルアルコールニハ本法ヲ適用セズ

現行法

第十七條　酒造税法又ハ酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ製造免許ヲ受ケタル者ガ酒類又ハアルコール含有飲料ノ原料トシテ其ノ同一製造場内ニ於テ製造スルアルコールニハ本法ヲ適用セズ

樺太酒類出港税法（酒税法附則）

改正法

第一條　本法ニ於テ酒類ト稱スルハ酒税法ノ燒酎及雜酒ヲ謂フ

現行法

第一條　本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造税法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料税法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

酒造組合法（酒税法附則）

改正法

第一條　本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ

現行法

第一條　本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ

清涼飲料税法

改正法

第二條　清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料税ヲ課ス

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ　一石ニ付　八圓五十錢

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ　一石ニ付　二十圓

第三種　壜詰以外ノモノ　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付　六圓

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際製造場以外ノ場所ニ於テ同一人ガ五石ヲ超ユル數量ノ第二種ノ清涼飲料ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ清涼飲料税ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場外ニ移出シタルモノト看做シ五石ヲ超ユル數量ニ付一石ニ付五圓ノ税率ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ税額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徴收ス

現行法

第二條　清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料税ヲ課ス

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ　一石ニ付　七圓

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ　一石ニ付　十圓

第三種　壜詰以外ノモノ　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付　三圓

支那事變特別税法

第八條ノ二　清涼飲料税ハ清涼飲料税法第二條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

第一種　玉ラムネ壜詰ノモノ　一石ニ付　八圓五十錢

第二種　其ノ他ノ壜詰ノモノ　一石ニ付　十五圓

第三種　壜詰以外ノモノ　炭酸瓦斯使用量一瓩ニ付　四圓五十錢

前項ノ清涼飲料ノ所持者ハ其ノ所持スル清涼飲料ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

砂糖消費税法

改正法

第一條　砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　削除

現行法

第一條　内地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費税ノ割合左ノ如シ

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖　百斤ニ付　九十錢

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　一圓八十錢

丙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　二圓二十五錢

第二種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　四圓五十五錢

第三條　消費稅ノ稅率左ノ如シ

一　砂糖

第一種　分蜜セサル砂糖

甲　樽入黑糖及樽入白下糖但シ黑糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付　三圓五十錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　五圓八十錢

第二種　其ノ他ノ砂糖但シ氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノヲ除ク

甲　蔗糖ノ重量全重量ノ百分ノ八十六ヲ超エサルモノ

百斤ニ付　六圓三十錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　十圓

第三種　氷砂糖、角砂糖棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付　十二圓五十錢

消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ氷砂糖ハ百斤ニ付一圓五十錢其ノ他

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付　六圓七十五錢

第四種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

百斤ニ付　七圓七十五錢

第五種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付　九圓五十錢

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ

百斤ニ付　二圓七十錢

乙　其ノ他ノモノ

糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付七圓七十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ

百斤ニ付　九十錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　二圓二十五錢

三　糖水

百斤ニ付　六圓七十五錢

支那事變特別稅法

第九條　砂糖消費稅ハ砂糖消費稅法第三條及臨時租稅增徵法第十七條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依ル

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖及樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、黑糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付　一圓七十錢

乙　其ノ他ノモノ

百斤ニ付　四圓

第二種　砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖

百斤ニ付　七圓八十錢

第三種　砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖

百斤ニ付　九圓三十錢

第四種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ

百斤ニ付　十一圓七十錢

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エザル

ノモノハ百斤ニ付二圓五十錢

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜　百斤ニ付　六圓五十錢

第二種　其ノ他ノ糖蜜　百斤ニ付　三圓五十錢

三　糖水　百斤ニ付　八圓四十錢

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供スルトキハ三月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

モノ　百斤ニ付　四圓六十錢

乙　其ノ他ノモノ　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量　百斤ニ付　九圓三十錢

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エザルモノ　百斤ニ付　一圓七十錢

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　四圓

三　糖水　百斤ニ付　七圓八十錢

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ定ム

第五條　政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二　前條第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ本法施行地ニ於テ消費シ又ハ本法施行地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得ス但シ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ承認ヲ受ケタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス

第六條　第四條第一項但書、第五條、第十一條及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

支那事變特別稅法

第十條　砂糖消費稅ニ付徵收ヲ猶豫シ得ル期間ハ砂糖消費稅法第四條第一項但書ノ規定ニ拘ラズ之ヲ三月內トス

第五條　政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第六條　第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條　第四條第一項但書、第五條、第十一條及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

前項ニ規定スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造又ハ販賣ニ關スル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條　第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ依ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　政府ノ承認ヲ受ケ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造ノ用ニ供スルモノ

二　アルコールノ製造ノ用ニ供スルモノ

三　煉乳又ハ外國ニ輸出スル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ノ製造ノ用ニ供スル砂糖

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六月以內ニ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項第三號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ引取リタル砂糖ヲ使用シテ菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ製造シタル者カ之ヲ政府ノ指定シタル期間內ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證明セサル場合ニ於テハ製造者ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收ス前項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四條第二項ノ規定ハ第二項ノ擔保ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシム

第十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノト看做ス

一　砂糖ニ加工シテ其ノ種別ヲ上昇スルトキ

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜、糖水及水以外ノ物品ヲ混和シテ其ノ數量ヲ增加スルトキ

第十二條　命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル砂糖（第三種ノ砂糖ヲ除ク）、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ之ヲ製造場ヨリ引取ルモ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第十二條ノ二　消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ原料トシテ煉乳ヲ製造シタル者又ハ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ原料トシテ製造シタル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ外國ニ輸出シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ原料トシテ使用シタル砂糖ニ付課セラレタル消費稅額ニ相當スル金額以下ノ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條ノ三　第九條及第十條ノ規定ハ第十一條第一項第三號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ引取リタル砂糖ヲ原料トスル煉乳又ハ菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ノ製造者及前條ノ規定ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ノ交付ヲ受クル煉乳ノ製造者ニ付之ヲ準用ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

一　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者

二　第五條ノ二第一項ノ規定ニ違反シテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ消費シ又ハ

ルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以內ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス

一　砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適用セス

煉乳原料砂糖戾稅法

第一條　政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ消費稅ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法

第一條　消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ用ヰ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國ヘ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニヨリ其ノ使用シタル砂糖ニ對シ消費稅ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

煉乳原料砂糖戾稅法

第三條　收稅官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅六圓未滿ナルトキハ罰金額ハ三十圓トス

一　第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三　前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅

消費ノ目的ヲ以テ讓渡シタル者

三　第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取リ又ハ引渡シ若ハ移出シタル者

四　前各號ノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ消費稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタル者

第十四條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ第十二條ノ二ノ交付金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ハ其ノ金額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第八條ノ二ノ規定ニ違反シテ販賣業又ハ製造業ヲ兼營シタル者

二　第九條第一項(第十二條ノ三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

三　第九條第二項(第十二條ノ三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

四　第十條(第十二條ノ三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二　第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス

第十五條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條　第十三條又ハ第十四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者、第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者、第十一條第一項第三號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ引取リタル砂糖ヲ原料トスル煉乳若ハ菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ノ製造者又ハ第十二條ノ二ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受クル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者、販賣者又ハ交付金ノ交付ヲ受クル者ヲ處罰ス

第十七條ノ二　本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

第十七條ノ三　關稅定率法第七條第十七號ノ規定ハ第十一條第一項第三號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ引取リタル砂糖ヲ原料トシテ製造シ又ハ第十二條ノ二ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付セラレタル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ニ對シテハ之ヲ適用セス

附　則

第一條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十二條ノ二ノ規定ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十七條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法

第一條　前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ對シテハ明治四十三年法律第五十四號關稅定率法第七條第十七號ヲ適用セス

本法施行前消費税ヲ課シ又ハ課スベカリシ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

第二條　煉乳原料砂糖戻税法及輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ハ之ヲ廢止ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル砂糖又ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子及糖果ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三條　本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通ジ合計一萬斤以上ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費税ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ第三條ノ改正税率ニ依リ算出シタル金額ト支那事變特別税法第九條ニ規定スル税率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ税額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所持者ハ其ノ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種別、數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

織物消費税法

改正法

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス但シ全重量百分中九十五以上ノ綿其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第四條　消費税ハ製造場又ハ保税地域ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ

現行法

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　綿織物

二　麻又ハ麻ト綿トヲ以テ組成シ其ノ麻ノ單絲カ英式番手四十二番ヲ超エサル織物

三　經絲ニ綿絲ノミヲ用ヰ緯絲ニ左ニ掲クル絲ノミヲ用ヒタル織物但シ「パイル」組織ノ織物ヲ除ク

イ　紡毛絲

ロ　命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲

ハ　紡毛絲及命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲ニ綿絲及イ、ロ又ハハニ掲クル絲

第一條ノ二　前條ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿、絹紡紬絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ヲ謂フ

第二條　消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ九トス

第四條　消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ

於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費税額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第九條　第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場又ハ保税地域ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費税ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十條　第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ製造場又ハ保税地域ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費税額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第九條　第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費税ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十條　第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徵收ス但シ消費税四圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三　消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四　第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場合ニ移入セサルトキ

五　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

六　前各號ノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費税ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトシタルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當セル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一　第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四　收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三　消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四　第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一　第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調整セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四　收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條　第十七條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條　第十二條、第十四條乃至第十六條、第十八條第二號第四號、第二十條及第二十一條ノ規定ハ第一條但書ノ織物ニモ之ヲ適用ス

政府ニ申告セスシテ第一條但書ノ織物ヲ製造シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條　本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油稅法

改正法

第三條　揮發油稅ノ稅率ハ一キロリットルニ付三十四圓三十五錢トス

第二十三條　本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際揮發油ノ製造者又ハ販賣者ガ製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ三キロリットル以上ノ揮發油ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ昭和十五年五月三十一日限其ノ揮發油稅ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ第三條ノ改正稅率ニ依リ算出シタル稅額ト從前ノ稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トス

揮發油稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル物ヲ混和シテ製成シタル揮發油ニ在リテハ其ノ混和シタル鑛油以外ノ物ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ前項ノ揮發油ノ數量トス

第二項ノ揮發油ノ所持者ハ其ノ所持スル揮發油ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以內ニ政府ニ申告スベシ

現行法

第三條　揮發油稅ノ稅率ハ一キロリットルニ付十三圓二十錢トス

第二十三條　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル